

授業科目名：情報社会・情報倫理	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：忽那 浩 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理」		
授業のテーマ及び到達目標 情報社会の急速な発展がもたらす影響を、個人の生活レベルや職業構造等から多角的に考察し、情報社会で必要とされる情報倫理について、個人生活や企業活動等さまざまな観点からの事例をもとに理解し、主体的に対応できる態度や能力を身に付ける。			
授業の概要 社会の情報化に伴って産業構造や就業構造が今日大きく変化している。社会の中で情報や情報技術が果たしている役割や職場環境・労働観への影響等を理解し、情報社会で必須の情報倫理について個人・企業等の事例をもとに具体的に考察し、主体的に対応できる態度や能力の育成を行う。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：情報通信社会とインターネットの進化と変遷 第3回：ネットワーク社会とコミュニケーション 第4回：メディアの変遷とメディア・リテラシー 第5回：職場環境及び情報技術とセキュリティ 第6回：インターネットと犯罪 第7回：個人情報とプライバシー 第8回：知的所有権とコンテンツ 第9回：企業と情報倫理 第10回：科学技術と倫理 第11回：ビッグデータとAIの倫理 第12回：デジタルデバイドとユニバーサルデザイン 第13回：ソーシャルネットワークサービスと情報モラル 第14回：情報通信社会とリテラシー 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 「【改定3版】情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー」高橋慈子、原田隆史、佐藤翔、岡部晋典 技術評論社、2023			
参考書・参考資料等 必要に応じて適宜プリントを配付する。			
学生に対する評価 定期試験（60％）、課題レポートへの取り組みや授業に参加する意欲・態度（40％）により総合的に評価する。			

授業科目名：オペレーティングシステム	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2 単位	担当教員名：小林 真也
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「コンピュータ・情報処理」		
授業のテーマ及び到達目標			
・オペレーティングシステムの構造を理解する。			
・プロセス管理を理解する。			
・メモリ管理を理解する。			
・ファイル管理を理解する。			
授業の概要			
オペレーティングシステムの仕組みを理解する。			
授業計画			
第 1 回：OS の概要①（OS の役割）			
第 2 回：OS の概要②（コンピュータ発展の歴史（第 1 世代から第 2 世代））			
第 3 回：OS の概要③（コンピュータ発展の歴史（第 3 世代以降））			
第 4 回：オペレーティングシステムの分類			
第 5 回：オペレーティングシステムの基本構造			
第 6 回：プロセス①（プログラムとプロセス，マルチプロセス，スケジューリング）			
第 7 回：プロセス②（プロセステーブル，プロセスの生成と終了）			
第 8 回：プロセス③（システムコールと割り込み）			
第 9 回：メモリ管理①（メモリの階層構造，仮想メモリ，スワップ，ページング）			
第 1 0 回：メモリ管理②（置換アルゴリズム）			
第 1 1 回：メモリ管理③（プロセスへのメモリ割当）			
第 1 2 回：ファイル管理①（ファイルシステム）			
第 1 3 回：ファイル管理②（ファイルの実装）			
第 1 4 回：ファイル管理③（特殊ファイル）			
第 1 5 回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
特になし			
参考書・参考資料等			
Modern Operating System (Fifth Edition)、Pearson Education Limited、Andrew Tanenbaum、2022			
教員が用意した資料を配付します。			
学生に対する評価			
定期試験（100％）			

授業科目名：データ構造とアルゴリズム	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2 単位	担当教員名：浦山 康洋 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「コンピュータ・情報処理」		
授業のテーマ及び到達目標 （１）オーダ記法を理解し、アルゴリズムの計算量を求めることができる （２）スタック、キュー、リストなどの基本的なデータ構造について説明できる （３）基本的な探索アルゴリズムについて説明できる （４）基本的なソーティングアルゴリズムについて説明できる			
授業の概要 アルゴリズムとは問題や課題を解決するための処理手順を指す言葉であり、コンピュータプログラムの作成をする上での要です。アルゴリズムをプログラミング言語で記述することでコンピュータプログラムが完成します。本授業では基本的なデータ構造、探索アルゴリズム、ソーティングアルゴリズムに対する知識を身につけることを目指します。また、プログラミング演習を通じて、プログラミングスキルや論理的思考力を高めます。			
授業計画 第1回：アルゴリズムの計算量 第2回：データ構造①（スタックとキューについて理解する） 第3回：データ構造②（スタック構造をC言語プログラムで実装する） 第4回：データ構造③（キュー構造をC言語プログラムで実装する） 第5回：データ構造④（リスト構造について理解する） 第6回：データ構造⑤（リスト構造をC言語プログラムで実装する） 第7回：探索アルゴリズム①（逐次探索、2分探索について理解する） 第8回：探索アルゴリズム②（逐次探索、2分探索をC言語で実装する） 第9回：ソーティングアルゴリズム①（バブルソート、選択ソート、挿入ソートについて理解する） 第10回：ソーティングアルゴリズム②（バブルソートをC言語で実装する） 第11回：ソーティングアルゴリズム③（選択ソート、挿入ソートをC言語で実装する） 第12回：ソーティングアルゴリズム④（クイックソートについて理解する） 第13回：ソーティングアルゴリズム⑤（クイックソートをC言語プログラムで実装する） 第14回：代表的なアルゴリズム 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 あるごりずむ、近代科学社、広瀬貞樹、2006 アルゴリズムの基礎 第3版、ITEC、アイテック IT 人材教育研究部、2023 配布プリント、授業スライドを適宜用意する。			
学生に対する評価 定期試験（70%）、課題（30%）で総合的に評価する。			

授業科目名：IT 概論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：島田 毅 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「コンピュータ・情報処理」		
授業のテーマ及び到達目標 コンピュータのハードウェアとソフトウェアの基本事項について説明できる。			
授業の概要 社会を支えているコンピュータや IT システムの基盤的な仕組みを理解する。 次に、その上でソフトウェア（アプリ）がどう動くのかを把握する。			
授業計画 第 1 回：イントロダクション（これからの社会と ICT、人間拡張技術、仕事における ICT 活用、IoT、ビッグデータ、AI 等） 第 2 回：コンピュータの基礎知識 第 3 回：ハードウェア①（パソコンの構造、電源、マザーボード、CPU、メモリ、磁気ディスク） 第 4 回：ハードウェア②（入力装置、出力装置、インタフェースの規格） 第 5 回：ソフトウェア 第 6 回：データ形式とマルチメディア 第 7 回：情報システム 第 8 回：通信ネットワーク①（集中処理・分散処理、クライアントサーバ、P2P、C/S、グリッド、クラウド） 第 9 回：通信ネットワーク②（ネットワークアーキテクチャ、LAN、WAN、ブロードバンド、無線 WAN、PAN） 第 10 回：インターネットとセキュリティ①（インターネットとは、IP、WWW、Web、E-mail） 第 11 回：インターネットとセキュリティ②（ネットワークセキュリティ、ファイアウォール、インターネットからの攻撃、暗号化、コンピュータウィルス） 第 12 回：システムの設計と開発①（システム開発モデル、開発工数とコスト、構造化手法） 第 13 回：システムの設計と開発②（外部設計、MMI、内部設計、詳細設計、プログラミング、構造化プログラミング、テスト） 第 14 回：システムの運用と管理 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト コンピュータと情報システム [第 3 版]、サイエンス社、草薙 信照、2022			
参考書・参考資料等 関連資料を配布する。			
学生に対する評価 復習レポート 15%、定期試験 85%。			

授業科目名：データベース	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高畠 嘉将
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「コンピュータ・情報処理」		
授業のテーマ及び到達目標			
IPAの情報処理技術者試験のデータベーススペシャリストの基礎となる知識を身につけることを目標とする。			
授業の概要			
データベースの基本概念，SQL（Structured Query Language）によるデータベースのデータの操作，データベース・テーブルの設計，データベースの運用，アプリケーションからのデータベースの利用方法について理解し，IPAの情報処理技術者試験のデータベーススペシャリストの基礎となる知識を身につけることを目的とする。データベースの社会への応用について興味・関心を刺激するために，ショッピングサイトなどの実際にデータベースを利用しているシーンを例として説明します。また，SQLを実際に手で実行したり，データベースにデータを蓄積するための入力画面を作成したりすることで，開発・運用の実践的なイメージを持ってもらいます。			
授業計画			
第1回：イントロダクション（授業の進め方およびデータベースの概要）			
第2回：データベースの種類			
第3回：SQL①（データベースの作成・削除・一覧表示・選択，テーブルの作成・削除，レコードの追加・更新・削除・取得）			
第4回：SQL②（条件絞り込み，データの並び替え，取得するデータ数の限定，データ数の取得，データの最大値・最小値・平均値・合計値の取得）			
第5回：SQL③（データの集約化，テーブルの結合）			
第6回：データ管理①（データ型，制約，属性，初期値）			
第7回：データ管理②（データの重複を防ぐ制約，自動連番，キー，トランザクション，コミット，ロールバック，デッドロック）			
第8回：テーブルの設計①（保存するデータ，データ同士の関係，ER図）			
第9回：テーブルの設計②（正規化，カラムのデータ型の設定，命名規則，シノニム，ホモニム）			
第10回：データベースの運用			
第11回：トラブルとセキュリティ対策			
第12回：アプリケーションからのデータベースの利用①（クライアント，ドライバ・ライブラリ，クラウドサービス，キャッシュ，ビッグデータの分析，AIを組み込んだデータベース）			

第13回：アプリケーションからのデータベースの利用②（ドライバ・ライブラリを用いて、データをデータベースに蓄積するための入力画面の実装：GUI部分実装） 第14回：アプリケーションからのデータベースの利用③（ドライバ・ライブラリを用いて、データをデータベースに蓄積するための入力画面の実装：内部ロジック実装） 第15回：まとめ 定期試験
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 図解まるわかり データベースのしくみ、翔泳社、坂上幸大、2021 教員が用意したオリジナルの授業資料を電子によって配付する。
学生に対する評価 定期試験（40％），SQL実行演習の成果物（30％），各回のコメントシート（30％）によって総合的に評価する。

授業科目名：データサイエンスⅠ	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2 単位	担当教員名：平田 浩一
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「コンピュータ・情報処理」		
授業のテーマ及び到達目標			
Python によるデータ分析を通してデータサイエンスの基礎を身につける。			
授業の概要			
データサイエンスを実践する第一歩として、回帰分析・分類・クラスタリングなどについて実データをを用いてデータ分析の技法について学習する。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：Python によるデータ処理の基礎（1）Pandas ライブラリ			
第3回：Python によるデータ処理の基礎（2）可視化ライブラリ			
第4回：線形回帰(1)単回帰分析と重回帰分析の基礎 -Iris データー			
第5回：線形回帰(2)線形回帰分析の実践 -不動産価格データー			
第6回：線形回帰(3)線形回帰分析の課題取組			
第7回：リッジ回帰・ラッソ回帰(1)リッジ回帰・ラッソ回帰の基礎			
第8回：リッジ回帰・ラッソ回帰(2)リッジ回帰・ラッソ回帰の実践			
第9回：ロジスティック回帰(1)ロジスティック回帰の基礎			
第10回：ロジスティック回帰(2)ロジスティック回帰の実践 -Tweet データー			
第11回：決定木とランダムフォレスト(1)決定木の基礎と実践			
第12回：決定木とランダムフォレスト(2)ランダムフォレストの基礎と実践			
第13回：主成分分析とK平均法(1)主成分分析の基礎と実践 -家計調査データー			
第14回：主成分分析とK平均法(2)K平均法の基礎と実践			
第15回：まとめ			
テキスト			
Python と実データで遊んで学ぶデータ分析講座、シーアンドアール研究所、梅津雄一・中野貴広、2019			
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
小テスト 60%、レポート課題 40%			

授業科目名：数理モデリング	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：松浦 一雄 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「コンピュータ・情報処理」		
授業のテーマ及び到達目標 問題に対して適切な数学モデルを選ぶことができる水準に到達することを目標とする。			
授業の概要 物理システムや実社会で現れる問題の解決を図る上で基礎となる数理モデリングについてより発展した事項を学ぶ。			
授業計画 第1回：イントロダクション（数値シミュレーション数理モデルの歴史や意義、分類、学習の進め方について理解を深める） 第2回：数学の予備知識 第3回：決定的モデル 第4回：経営モデル 第5回：経済モデル 第6回：確率モデルと乱数 第7回：モンテカルロ法 第8回：在庫管理 第9回：待ち行列 第10回：カオス・フラクタル 第11回：機械学習①（教師あり学習、教師なし学習、強化学習、サポートベクターマシン、決定木、ランダムフォレスト、クラスタリング（k近傍法、スペクトルクラスタリング）） 第12回：機械学習②（ニューラルネットワーク、ディープラーニング） 第13回：遺伝的アルゴリズム 第14回：セルとエージェント 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト コンピュータシミュレーション（改訂2版）、オーム社、伊藤俊秀、草薙信照、2019			
参考書・参考資料等 python コンピュータシミュレーション入門-人文・自然・社会科学の数理モデル、オーム社、橋本洋志、牧野浩二、2021 Artificial Intelligence A Modern Approach Fourth Edition、Pearson、Stuart Russell、Peter Norvig、2020 The Elements of Statistical Learning Data Mining, Inference, and Prediction, Second Edition、Springer、T. Hastie、R. Tibshirani、J. Friedman、2009 必要に応じて、講義資料を配布する。また講義中に参考図書を適宜紹介する。			
学生に対する評価 定期試験(50%)およびレポート課題(50%)により総合的に評価する。			

授業科目名：物理シミュレーション	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：松浦 一雄 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「コンピュータ・情報処理」		
授業のテーマ及び到達目標 問題に対して適切な物理シミュレーションを選ぶことができる水準に到達することを目標とする。			
授業の概要 専門的なメディアデザインを可能にする物理シミュレーションについて学ぶ。			
授業計画 第1回：イントロダクション（物理シミュレーションの概要やそのメディアデザインにおける位置づけについて理解を深める） 第2回：数学と力学の基礎 第3回：基本となる数値計算法 第4回：データの可視化 第5回：計算幾何学アルゴリズム 第6回：剛体シミュレーション 第7回：弾性体シミュレーション①（材料の弾塑性変形やバネ－質点系について） 第8回：弾性体シミュレーション②（位置ベース変形法について） 第9回：流体シミュレーション①（流体の性質，オイラー視点・ラグランジュ視点，基礎方程式や流体の挙動を表す代表的な物理量について） 第10回：流体シミュレーション②（構造格子・非構造格子，数値スキーム，自由界面追跡について） 第11回：流体シミュレーション③（SPH や DEM といった粒子法と土砂災害など応用シミュレーションについて） 第12回：波の伝播シミュレーション 第13回：複雑システムのシミュレーション 第14回：シミュレーション実習 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト CG のための物理シミュレーションの基礎、マイナビ出版、藤澤誠、2013 ゲーム開発のための物理シミュレーション入門－Physics for Game Developers、オーム社、David M. Boug（著）榊原 一矢（監訳）、2003			
参考書・参考資料等 Fluid Simulation for Computer Graphics Second Edition、CRC Press、R. Bridson、2015 Computational Geometry Algorithms and Applications、Springer、M. D. Berg, O. Cheong, M. V. Kreveld, M. Overmars、2008 楽器の物理学、丸善出版、N. H. フレッチャー, T. D. ロッシング(著), 岸憲史, 久保田秀美, 吉川茂(訳)、2012 必要に応じて、電子資料を配布する。また講義中に参考図書を適宜紹介する。			
学生に対する評価 定期試験 (50%) およびレポート課題 (50%) により総合的に評価する。			

授業科目名：プログラミング I	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2 単位	担当教員名：檀 裕也、田中 健吾、志田 洋、平田 浩一、柏木 紘一、高畠 嘉将 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「情報システム」		
授業のテーマ及び到達目標 Python プログラムのコーディング，デバッグおよび実行を通じて，プログラミングの基礎を身につける。			
授業の概要 人工知能やデータ解析に使用されているプログラミング言語 Python の基本文法や各種パラダイムを理解し、モダンプログラミングの考え方を身につける。具体的な内容として、Python の基本的な操作から始め、プログラムの分岐や繰り返し、オブジェクトや型、文字列、リスト・タプル・辞書・集合、関数、モジュール・パッケージ・クラス、例外処理、ファイル処理などについて学ぶ。			
授業計画 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：Python をはじめよう！ 第 3 回：画面への表示とキーボードからの入力 第 4 回：プログラムの流れの分岐 第 5 回：プログラムの流れの繰り返し 第 6 回：オブジェクトと型 第 7 回：文字列 第 8 回：リスト 第 9 回：タプルと辞書と集合 第 10 回：関数 第 11 回：モジュールとパッケージ 第 12 回：クラス 第 13 回：例外処理 第 14 回：ファイル処理 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト 新・明解 Python 入門（第 2 版）、SB クリエイティブ、柴田 望洋、2023			
参考書・参考資料等 オンラインによるサポート教材を提供する。			
学生に対する評価 毎回の課題（50％）および定期試験（50％）			

授業科目名：プログラミングⅡ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：田中 健吾 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「情報システム」		
授業のテーマ及び到達目標 C 言語で基礎的なプログラミングができるようになる。 他のプログラミング言語を自主学習できるようになる。 基本情報技術者試験の当該分野に関する自主学習ができるようになる。			
授業の概要 プログラミングⅠで学んだプログラミングの経験をもとに、本科目ではシステム開発に用いられる代表的なプログラミング言語である C 言語の文法を学び、基礎的な情報処理がプログラミングできるようになることを目標とする。			
授業計画 第1回：イントロダクション（開発環境構築 C 言語の現状 授業の進め方） 第2回：演算と型 第3回：条件分岐 第4回：繰り返し処理 第5回：配列 第6回：関数 第7回：基本型 第8回：応用的処理・小テスト 第9回：文字列 第10回：ポインタ 第11回：文字列とポインタ 第12回：構造体①（構造体の基礎 メンバ） 第13回：構造体②（構造体のメンバを持つ構造体） 第14回：ファイル処理 第15回：まとめ			
テキスト 新・明解 C 言語入門第2版、ソフトバンククリエイティブ、柴田望洋、2021			
参考書・参考資料等 適宜、資料を提供する。			
学生に対する評価 課題（50%）、小テスト（50%）で成績評価を行う。			

授業科目名：プログラミング実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 健吾 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「情報システム」		
授業のテーマ及び到達目標 RPAとVBAの役割について理解できる。 VBAでExcelの基礎的な自動化がプログラミングできるようになる。			
授業の概要 近年、ノンコーディング開発ができるRPAが事務処理業務の自動化に用いられている。他方、歴史のあるVBAも、Microsoft社の業務アプリケーションであるExcel等の標準機能に無い処理を実装することが可能であり、同様に事務処理業務の自動化に用いられてきた。本科目では、RPAとVBAを用いて、実際に業務で役立つ開発を行うことを目標としている。			
授業計画 第1回：RPAのイントロダクション 第2回：Power Automate Desktopの基礎 第3回：Power Automate DesktopによるExcelの自動化 第4回：VBAのイントロダクション 第5回：VBAの基本 第6回：オブジェクト 第7回：条件分岐 第8回：繰り返し処理 第9回：関数（VBA関数 ワークシート関数 ユーザ定義関数） 第10回：アプリケーション作成①（販売管理アプリケーションの設計） 第11回：アプリケーション作成②（販売データを請求書へコピー） 第12回：アプリケーション作成③（顧客選択機能の追加） 第13回：アプリケーション作成④（顧客選択機能と請求書作成との連携） 第14回：アプリケーション作成⑤（コードの見直し・修正） 第15回：まとめ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 業務改善コンサルタントが教える Excel VBA自動化のすべて、技術評論社、永井 雅明、2022 適宜、資料を配布する。			
学生に対する評価 課題（100％）で評価する。			

授業科目名：Linux 実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：黒田 久泰 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「情報システム」		
授業のテーマ及び到達目標 ・Linux の特徴や用途を説明することができる。 ・Linux 上で動作するソフトウェアを活用することができる。 ・Linux を利用したサーバーを構築し、運用・管理を行うことができる。			
授業の概要 各種サーバーは Unix 系 OS の一つである Linux を利用して構築されていることが多い。その Linux の基本知識と操作方法、及び、Linux 上でよく使われているソフトウェアの使い方を習得する。また、Linux を用いたサーバーの構築、運用管理の方法についても習得する。			
授業計画 第1回：Linux の基本操作 第2回：基本コマンド 第3回：Linux のインストール 第4回：応用コマンド 第5回：Web サーバーの構築とエディタ 第6回：ソフトウェア開発①（C コンパイラの使い方を理解する） 第7回：ソフトウェア開発②（make コマンドと Makefile について理解する） 第8回：ソフトウェア開発③（C 言語について理解する） 第9回：LaTeX①（組版ソフトの LaTeX の使い方の基本を理解する） 第10回：LaTeX②（組版ソフトの LaTeX での図や表の挿入の方法、参考文献の記述方法について理解する） 第11回：シェルと環境設定 第12回：データベースサーバー 第13回：コンテンツ・マネジメント・システム 第14回：メールサーバー 第15回：まとめ			
テキスト はじめての Linux:これだけは知っておきたい LinuxOS とアプリケーションの基礎知識、森北出版、小林真也 他、2020			
参考書・参考資料等 教員が作成した資料も併用する。			
学生に対する評価 課題 100%			

授業科目名：アプリ開発 I	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2 単位	担当教員名：平田 浩一
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「情報システム」		
授業のテーマ及び到達目標			
Google AppSheet を利用してアプリ開発ができるようになる。			
授業の概要			
モバイルアプリ開発の基本として、Google AppSheet を利用したアプリ開発の方法を学ぶ。			
授業計画			
第1回：モバイルアプリ開発とは			
第2回：AppSheet の基本（AppSheet によるアプリ開発の概要）			
第3回：サンプルアプリ（最初に簡単なアプリを作る。）			
第4回：スプレッドシート（スプレッドシートからアプリを作る。）			
第5回：ビューの設定（AppSheet で使えるビューの種類と使い方）			
第6回：機能追加（アプリに機能を追加する。）			
第7回：Google フォーム（Google フォームでアプリを作る。）			
第8回：グラフ機能（アプリにグラフを追加する。）			
第9回：イメージ描画（落書き帳アプリを作る。）			
第10回：カメラ（アプリからカメラを操作する。）			
第11回：地図とカレンダー（地図やカレンダーとの連携）			
第12回：アプリ開発実践（1）（アプリの企画立案）			
第13回：アプリ開発実践（2）（アプリの制作）			
第14回：アプリ開発実践（3）（アプリの評価）			
第15回：まとめ			
テキスト			
Google AppSheet ではじめるノーコード開発入門、ラトルズ、掌田津耶乃、2021			
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
小テスト（50%）とレポート課題（50%）によって総合的に評価する。			

授業科目名：機械学習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：SKIBBE Henrik
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「情報システム」		
授業のテーマ及び到達目標 様々な種類の機械学習技術について学ぶ。 教師なし学習と教師あり学習の違いを学ぶ。 Python の例を使って、これらの技術がどのようにデータ分析に利用できるかを学ぶ。			
授業の概要 この授業では、基本的な理論から実践的な応用までを学びます。線形代数、微積分、確率統計の基礎から始め、Python を使った機械学習の実装へと進みます。この授業で扱うトピックは、たとえば、教師あり学習、教師なし学習、人工ニューラルネットワーク、最適化、プログラミングのヒントなどで、機械学習を実世界の問題解決に応用する能力を身につけます。			
授業計画 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：機械学習のための数学①（線形代数） 第 3 回：機械学習のための数学②（微積分と自動微分） 第 4 回：機械学習のための数学③（確率と統計） 第 5 回：機械学習用 Python 第 6 回：機械学習の基礎①（学習アルゴリズム、検証セット） 第 7 回：機械学習の基礎②（教師あり／教師なし学習） 第 8 回：機械学習の基礎、例①（線形回帰／分類） 第 9 回：機械学習の基礎、例②（クラスタリング） 第 1 0 回：基本的な人工ニューラルネットワーク①（フィードフォワードネットワークとバックプロパゲーション） 第 1 1 回：基本的な人工ニューラルネットワーク②（正則化） 第 1 2 回：基本的な人工ニューラルネットワーク③（最適化） 第 1 3 回：人工ニューラルネットワークの応用 第 1 4 回：プログラミング：注意点とヒント 第 1 5 回：まとめ 定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 教員が用意したオリジナルの授業資料を電子配付する。			
学生に対する評価 定期試験 40%、小テスト 30%、各回のコメントシート 30%			

授業科目名：ディープラーニング	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：SKIBBE Henrik 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「情報システム」		
授業のテーマ及び到達目標 様々な種類の最新のディープラーニング・モデルについて学ぶ。特に、画像処理と画像解析、そして言語処理のための手法を学ぶ。また、これらの手法を実際のデータに適用するためのPython の使い方も学ぶ。			
授業の概要 この授業では、畳み込みニューラルネットワーク、アテンションメカニズム（注意機構）、画像生成モデル、微調整、転移学習などの最新技術を探求する。理論から実践的応用までをカバーし、実世界の問題解決に必要なスキルを身に付ける。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：畳み込みニューラルネットワーク①（画像のためのニューラルネットワーク、基礎と画像分類） 第3回：畳み込みニューラルネットワーク②（最新のネットワーク設計、画像補強） 第4回：回帰型ニューラルネットワーク 第5回：物体検出のための人工ニューラルネットワーク 第6回：セマンティック・セグメンテーション 第7回：アテンションとトランスフォーマー①（深層学習におけるアテンション機構とトランスフォーマーモデルの原理と応用） 第8回：アテンションとトランスフォーマー②（ヴィジョン・トランスフォーマー） 第9回：画像生成モデル 第10回：微調整と転移学習 第11回：人工ニューラルネットワークの応用 第12回：医療画像解析 第13回：次世代ディープラーニング 第14回：プログラミング：注意点とヒント 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 教員が用意したオリジナルの授業資料を電子配付する。			
学生に対する評価 定期試験 40%、小テスト 30%、各回のコメントシート 30%			

授業科目名：情報システム開発	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4 単位	担当教員名：高畠 嘉将 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「情報システム」		
授業のテーマ及び到達目標 システム開発とプロジェクト管理の実践について理解することを目標とする。			
授業の概要 これまで学習してきた Web プログラミングによる GUI 実装、データベース、プロジェクト管理の知識を総動員して、実際のデータベースを利用したシステム開発およびそのプロジェクト管理を実施することで、システム開発とプロジェクト管理の実践について理解することを目的とする。具体的には、受講者はグループに分かれて、グループごとに選んだもしくは独自に考えたデータベースを利用したシステムを開発するプロジェクトを実施する。スケジュール作成、進捗管理などのプロジェクト管理も各グループで実施する。			
授業計画 第 1 回：イントロダクション（授業の進め方およびテーマ決め） 第 2 回：システム開発①（スケジュール作成・担当割当） 第 3 回：システム開発②（要件定義） 第 4 回：システム開発③（外部設計） 第 5 回：システム開発④（内部設計） 第 6 回：システム開発⑤（プレゼンテーション資料の作成） 第 7 回：成果発表 第 8 回：システム開発⑥（成果発表のフィードバックを受けて、プロジェクト全体を修正する） 第 9 回：システム開発⑦（プログラミング（1）：GUI 部分実装） 第 10 回：システム開発⑧（プログラミング（2）：内部ロジック実装） 第 11 回：システム開発⑨（単体テスト（1）：テストケース作成） 第 12 回：システム開発⑩（プレゼンテーション資料作成） 第 13 回：成果発表 第 14 回：報告書 第 15 回：中間まとめ 第 16 回：システム開発⑪（成果発表のフィードバックを受けて、プロジェクト全体を修正する） 第 17 回：システム開発⑫（単体テスト（2）：テスト実施・結果検証） 第 18 回：システム開発⑬（結合テスト（1）：テストケース作成） 第 19 回：システム開発⑭（結合テスト（2）：テスト実施） 第 20 回：システム開発⑮（結合テスト（3）：テスト結果検証） 第 21 回：システム開発⑯（プレゼンテーション資料を作成する） 第 22 回：成果発表 第 23 回：システム開発⑰（成果発表のフィードバックを受けて、プロジェクト全体を修正する） 第 24 回：システム開発⑱（機能拡張（1）：要件定義作成） 第 25 回：システム開発⑲（機能拡張（2）：外部・内部設計） 第 26 回：システム開発⑳（機能拡張（3）：プログラミング） 第 27 回：システム開発㉑（機能拡張（4）：単体・結合テスト） 第 28 回：システム開発㉒（機能拡張（5）：テスト結果検証）			

第29回：システム開発②③（プレゼンテーションのリハーサル） 第30回：まとめ
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 教員が用意したオリジナルの授業資料を電子によって配付する。
学生に対する評価 各回の課題（25%）、各回のコメントシート（25%）、成果発表（50%）によって総合的に評価する。

授業科目名：情報ネットワークⅠ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2 単位	担当教員名：岩崎 祐也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「情報通信ネットワーク」		
授業のテーマ及び到達目標 スイッチやルータの特性を理解し小規模なネットワークを構築することができる。			
授業の概要 現代社会では、ありとあらゆるモノが情報ネットワークに接続され、情報通信を必要としています。しかし、情報ネットワークがどのような仕組みで情報通信を行っているのか一般的には知られていません。本科目では情報ネットワークと日常生活とのかかわりや情報通信で使われている TCP/IP の基本的な動作と代表的なプロトコルについて理解を深めます。また、本講義では知識習得を目的とした前半（第 1 回-7 回）ではメディアによる授業を行い、技術習得を目的とした後半（第 8 回-15 回）では面接授業で行います。面接授業では、プロの現場で使われている Cisco ルータ・Catalyst スイッチなどの実機による操作や設定演習を中心に進めていくことで、より実践的な知識と技術を習得します。具体的には物理ケーブルの作成、静的ルーティングとデフォルトルートの設定、RIP による動的ルーティングの設定、スイッチの基本動作の理解と VLAN によるネットワークセグメントの分割、インターネット接続のためのアドレス配布・変換などの技術を実機演習を通じて習得していきます。			
授業計画 第 1 回：身近なネットワーク 第 2 回：通信プロトコルと LAN (Local Area Network) 第 3 回：WAN (Wide Area Network) とクラウドサービス 第 4 回：スイッチング基礎 第 5 回：ルーティング基礎 第 6 回：IP アドレスの計算と設計 第 7 回：アプリケーションの種類と役割 第 8 回：LAN ケーブル作成 第 9 回：IOS の基礎と実機演習 第 10 回：ダイナミックルーティングプロトコル (RIP) 第 11 回：VLAN によるネットワークセグメントの分割 第 12 回：VLAN 間ルーティング 第 13 回：ネットワークセキュリティとアクセス制御 第 14 回：アドレス配布と動的アドレス変換 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集[対応試験]200-301、翔泳社、林口裕志、浦川 晃、2020			
参考書・参考資料等 教員が用意したオリジナルの資料を配布する。			
学生に対する評価 各回のコメントシート（30％）、定期試験（70％）によって総合的に評価する。			

授業科目名：情報ネットワークⅡ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2 単位	担当教員名：岩崎 祐也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「情報通信ネットワーク」		
授業のテーマ及び到達目標 無線ネットワークの設計・構築手法やネットワーク冗長化、経路制御技術を用いて中規模なネットワークを構築することができる。			
授業の概要 現代社会では、ありとあらゆるモノが情報ネットワークに接続され、情報通信を必要としています。しかし、情報ネットワークがどのような仕組みで情報通信を行っているのか一般的には知られていません。本科目では情報ネットワークⅠで学んだネットワーク構築技術に加えて、より高度なネットワーク制御・構築技術を習得することにより、一般的な企業内ネットワークの設計・構築・メンテナンスが担当できる技術者を目指します。具体的には無線ネットワークの設計構築、ネットワークの冗長化するための仕組み、IPv6 に対応したプロトコル、AS 内で利用する動的経路制御、AS 間での経路制御、高度なネットワーク経路制御技術、WAN 接続プロトコルなどについて学んでいきます。また、情報ネットワークⅠと同様に実機による操作や設定演習を中心に進めていくことで、より実践的な知識と技術を習得していきます。			
授業計画 第1回：無線ネットワーク①（無線ネットワークの基本的な仕組みと動作、無線 Wi-Fi の設定について理解を深める） 第2回：無線ネットワーク②（通信チャネルの種類と特徴、無線電波の調査方法について理解を深める） 第3回：無線ネットワーク③（無線電波の調査結果を基にした適切な無線ネットワークの設計について理解を深める） 第4回：スイッチの冗長化と STP 第5回：リンクアグリゲーション 第6回：デフォルトゲートウェイの冗長化 第7回：IPv6 の概要 第8回：IPv6 に対応したプロトコル 第9回：シングルエリア OSPF 第10回：マルチエリア OSPF 第11回：BGP による経路制御 第12回：ルート再配布 第13回：ルート制御 第14回：WAN 接続プロトコル 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集[対応試験]200-301、翔泳社、林口裕志、浦川 晃、2020			
参考書・参考資料等 シスコ技術者認定教科書 CCNP Enterprise 完全合格テキスト&問題集 [対応試験] コンセン トレーション試験 ENARSI（300-410）、翔泳社、林口 裕志、川島 拓郎、2021 その他教員が用意したオリジナルの資料を配布する。			
学生に対する評価 各回のコメントシート（30%）、定期試験（70%）によって総合的に評価する。			

授業科目名：クラウド開発	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：柏木 紘一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「情報通信ネットワーク」		
授業のテーマ及び到達目標 クラウドコンピューティングの基礎的な知識を身につけることができる。クラウドとオンプレミス（自社運用）との違いやメリット・デメリットを理解し、システムの要求に合わせて最適な環境を提案できる。クラウドを利用したシステム、ネットワークを設計、構築できる。クラウドで提供されている最先端の技術を自ら学び、活用できる。AWS 認定資格である AWS Certified Cloud Practitioner の当該分野の自主学習ができるようになる。			
授業の概要 クラウドコンピューティングの基礎的な知識を修得する。 クラウドとオンプレミス（自社運用）との違いやメリット・デメリットを理解し、システムの要求に合わせて最適な環境を提案できるようになる。 クラウドを利用したシステム、ネットワークを設計できる知識を修得する。クラウドで提供されている最先端の技術を自ら学ぶ力を養う。			
授業計画 第1回：クラウドサービス概要 第2回：クラウドのコスト管理 第3回：セキュリティとアイデンティティ 第4回：ネットワーク 第5回：コンピューティングサービス 第6回：リソースの監視、ロギング 第7回：ストレージサービス 第8回：データベース 第9回：負荷分散、WAF（Web Application Firewall） 第10回：サーバーレスコンピューティング 第11回：Web アプリケーション設計 第12回：Web アプリケーション構築①（VPC、サブネット、EC2、セキュリティグループ等作成） 第13回：Web アプリケーション構築②（Aurora データベース、ElastiCache、EFS 等作成） 第14回：Web アプリケーション構築③（ALB、WAF 等を作成し、Web アプリケーションを完成させる） 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 AWS 運用入門 押さえておきたい AWS の基本と運用ノウハウ、SB クリエイティブ、佐竹陽一他、2023 徹底攻略 AWS 認定 クラウドプラクティショナー教科書、インプレス、高山裕司、2023 徹底攻略 AWS 認定 ソリューションアーキテクト - アソシエイト教科書 第3版 [SAA-C03] 対応、インプレス、鳥谷部昭寛 他、2023 その他教員が用意したオリジナルの授業資料を LMS にて配付する。			
学生に対する評価 定期試験（50％）、小テスト（20％）、各回のコメントシート（30％）			

授業科目名：情報セキュリティ対策	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：島田 毅 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「情報通信ネットワーク」		
授業のテーマ及び到達目標			
①日常生活に潜む情報通信技術（ICT）に関わるセキュリティリスクを認識し、適切な対策を実行できる。			
②ウィルスやボットなど不正なソフトウェア（マルウェア）の動作と被害、予防策につき説明できる。			
③組織や個人のセキュリティ対策につき事例を挙げて説明できる。			
④暗号化、ファイアウォール、デジタル署名などセキュリティ技術および、国際動向の概要を説明できる。			
授業の概要			
・インターネットはじめ ICT のもたらす恩恵（光）に対する脅威（影）として、セキュリティリスク、被害と対策、各種のセキュリティ対策技術、国際的な動向につきテキストおよび映像コンテンツ等を利用して学習する。			
・情報処理推進機構（IPA）発行の「情報セキュリティ白書」を参照し、国内外の動向を把握する。			
・IT セキュリティに長けた IT 企業や IT セキュリティを所管する公的機関のキーマンを招聘し、脅威と対策の最新動向について講演いただく（予定）。			
授業計画			
第 1 回：イントロダクション（企業・組織、個人に莫大な被害を与えるセキュリティ脅威の実態）			
第 2 回：情報セキュリティの基礎			
第 3 回：「私のセキュリティ体験」分析、まとめ			
第 4 回：「私のセキュリティ体験」発表			
第 5 回：見えない脅威とその対策－個人レベルのセキュリティ対策①（マルウェア、共通の対策、標的型攻撃と誘導型攻撃への対策）			
第 6 回：見えない脅威とその対策－個人レベルのセキュリティ対策②（フィッシング詐欺への対策、ワンクリック請求への対策）			
第 7 回：見えない脅威とその対策－個人レベルのセキュリティ対策③（スマートフォンの脅威と対策、無線 LAN に潜む脅威とその対策）			
第 8 回：組織の一員としての情報セキュリティ対策①（組織のセキュリティ対策、従業員としての心得）			
第 9 回：組織の一員としての情報セキュリティ対策②（気を付けたい情報漏洩、終わりのないプロセス）			
第 1 0 回：もっと知りたいセキュリティ技術			
第 1 1 回：セキュリティ最新動向の把握①（情報セキュリティ白書」掲載のインシデントの調査）			
第 1 2 回：セキュリティ最新動向の把握②「情報セキュリティ白書」掲載のインシデントの研究）			
第 1 3 回：インターネットセキュリティの現状と対策			
第 1 4 回：セキュリティ最新動向の把握③（個人演習成果の共有、ディスカッション、グループ発表準備）			
第 1 5 回：まとめ			

テキスト
情報セキュリティ読本 六訂版-IT時代の危機管理入門-, 実教出版、情報処理推進機構、2022
参考書・参考資料等
必要に応じて補足資料を配布、URL を通知する。
学生に対する評価
①復習内容の情報発信課題 60%、②レポート 20%、③グループ発表 20%の割合で評価する。

授業科目名：情報セキュリティ基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：田中 健吾 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「情報通信ネットワーク」		
授業のテーマ及び到達目標 情報セキュリティ関連の用語を理解し、基礎的な資料が読解できるようになる。 将来、所属する組織において、情報セキュリティ対策を担える素養を身に付ける。 情報セキュリティマネジメント試験や基本情報技術者試験の当該分野の自主学習ができるようになる。			
授業の概要 個人や組織の活動の多くは情報技術の基盤（ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークなど）の上に成立しており、そこから生み出させるデータと情報技術基盤を情報資産と呼ぶ。価値を有する情報資産を様々な脅威から守り、正常に維持・管理・運用していく技術や枠組みが情報セキュリティである。情報セキュリティが確保されるためには、機密性・完全性・可用性の三要素を満たしていることが求められる。三要素の実現には、技術的、人的、物理的な観点から各種セキュリティ対策を講ずる必要があり、そのための標準的な対策方法について学習する。			
授業計画 第1回：イントロダクション（情報セキュリティの3要素 授業の進め方） 第2回：サイバー攻撃①（マルウェア パスワードクラック） 第3回：サイバー攻撃②（不正アクセス 盗聴 なりすまし） 第4回：サイバー攻撃③（スクリプト攻撃 標的型攻撃 その他の攻撃） 第5回：暗号と認証①（共通鍵暗号 公開鍵暗号） 第6回：暗号と認証②（ハイブリッド暗号 ハッシュ関数 署名） 第7回：暗号と認証③（公開鍵暗号基盤 電子証明書） 第8回：暗号と認証④（認証技術） 第9回：情報セキュリティ管理①（ISMS 情報セキュリティポリシー） 第10回：情報セキュリティ管理②（リスクマネジメント） 第11回：情報セキュリティ管理③（脆弱性情報 情報セキュリティ対策の組織・機関） 第12回：情報セキュリティ対策①（人的対策 物理的対策） 第13回：情報セキュリティ対策②（技術的対策） 第14回：情報セキュリティ関連法規 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 情報セキュリティ読本 六訂版、実教出版、情報処理推進機構、2022			
参考書・参考資料等 図解入門 TCP/IP 仕組み・動作が見て分かる、SBクリエイティブ、みやたひろし、2020 マスタリング TCP/IP—入門編 第6版、オーム社、井上 直也 ほか、2019 マスタリング TCP/IP 情報セキュリティ編 第2版、オーム社、齋藤 孝道、2022 適宜、資料を配布する。			
学生に対する評価 課題提出（40%）、定期試験（60%）により評価する。			

授業科目名：マルチメディア	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2 単位	担当教員名：檀 裕也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「マルチメディア表現・マルチメディア技術」		
授業のテーマ及び到達目標 ・マルチメディアの表現と技術について理解する。 ・デジタルコンテンツの制作に関する知識と技能（スキル）を身につける。 ・オリジナル作品を制作し、インターネットなどのメディアを通じて公開することができる。 ・CG-ARTS 検定「マルチメディア検定」のエキスパートまたはベーシックに合格できる水準に達する。			
授業の概要 マルチメディアの表現と技術について、基本的なアルゴリズムに基づくプログラミングを踏まえた上で、最も効果的なコンテンツを制作するために必要な理論を理解し、技能（スキル）に磨きをかけるとともに、作品をインターネットに公開するまでの著作権を含めた知識を習得する。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：マルチメディアとは？ 第3回：文字による情報の表現と技術 第4回：音声による情報の表現と技術 第5回：画像による情報の表現と技術 第6回：映像による情報の表現と技術 第7回：アニメーションによる情報の表現と技術 第8回：HTML5 の canvas 要素によるマルチメディアの実現 第9回：仮想現実（VR）/拡張現実（AR）/混合現実（MR）など 第10回：マルチメディアコンテンツに関する著作権 第11回：重力効果の物理演算 第12回：生命の表現 第13回：数理造形による樹木の表現 第14回：数理造形による雪の結晶の表現 第15回：まとめ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 オンラインによるサポート教材を提供する。			
学生に対する評価 毎回の課題（50％）および最終制作課題（50％）			

授業科目名：Web プログラミング	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：黒田 久泰 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「マルチメディア表現・マルチメディア技術」		
授業のテーマ及び到達目標 ・HTML や JavaScript でフロントエンド開発を行うことができる。 ・PHP や Java でバックエンド開発を行うことができる。 ・プログラミングの成果を報告書として分かりやすくまとめることができる。			
授業の概要 Web プログラミングとは Web で使われる Web アプリケーションや Web サービスを開発することで、直接ユーザーの目に触れる Web ブラウザ側で動くフロントエンド開発とユーザーの目には触れない Web サーバー側で動くバックエンド開発に分けられます。フロントエンド開発では、HTML と CSS を用いて Web ページのデザインを構築し、JavaScript を用いてインタラクティブに動作する Web サイトの制作技術を習得します。バックエンド開発では、PHP や Java などのプログラミング技術を習得します。			
授業計画 第 1 回：HTML の構文 第 2 回：CSS の活用 第 3 回：HTML フォームと CGI 第 4 回：JavaScript の基本 第 5 回：PHP の基本 第 6 回：JavaScript と Image オブジェクトの利用 第 7 回：jQuery ライブラリと Cookie の利用 第 8 回：PHP と SQLite の利用 第 9 回：Canvas による基本図形の描画 第 1 0 回：Canvas の応用と乱数生成 第 1 1 回：ジオコーディングサービスの利用 第 1 2 回：Node. js の利用 第 1 3 回：Java アプリケーション①（Java のプログラミングを通して構文、文法、関数などを理解する） 第 1 4 回：Java アプリケーション②（Java による図形の描画やスレッドプログラミングを理解する） 第 1 5 回：まとめ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 各回の授業で、教員が作成した資料を使用する。			
学生に対する評価 課題 100%			

授業科目名：Web デザイン	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：檀 裕也
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「マルチメディア表現・マルチメディア技術」		
授業のテーマ及び到達目標			
・ Web デザインに関する知識と技能（スキル）を身につける。 ・ オリジナルサイトを制作し、インターネットなどのメディアを通じて公開することができる。 ・ CG-ARTS 検定「Web デザイン検定」のエキスパートまたはベーシックに合格できる水準に達する。			
授業の概要			
インターネット利用者の使いやすさを意識した Web サイト（ホームページ）の設計について講義するとともに、学んだ内容を実習によって確認する。具体的には HTML5 と CSS3 を中心とする Web 標準について理解し、テキストや画像などのコンテンツを適切に配置し、パソコンだけでなくタブレットやスマートフォンなどのメディアにも対応した Web サイトを制作する。			
授業計画			
第1回：イントロダクション 第2回：Web 制作環境 第3回：構造言語 HTML 第4回：視覚表現 CSS 第5回：画像処理 第6回：映像処理 第7回：音声処理 第8回：CMS の基礎（実習） 第9回：CMS の応用（実習） 第10回：CMS 実習①（サーバ環境） 第11回：CMS 実習②（ファイルのアップロード） 第12回：CMS 実習③（ファイルの後進） 第13回：CMS 実習④（検索エンジン最適化） 第14回：最新技術 第15回：まとめ			
テキスト			
特になし			
参考書・参考資料等			
オンラインによるサポート教材を提供する。			
学生に対する評価			
毎回の課題（50％）および最終制作課題（50％）			

授業科目名：実写映像制作 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：阪本 裕文 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「マルチメディア表現・マルチメディア技術」		
授業のテーマ及び到達目標 学生がデジタル映像技術のメカニズムを理解し、一定のレベルで使えるようになることを目標とする。			
授業の概要 授業の前半ではデジタル一眼レフカメラを使用して、写真制作の基礎に取り組む。授業の後半では、デジタル一眼レフカメラのビデオ機能および業務用ビデオカメラを使用して映像制作の基礎に取り組む。これによって、デジタル映像技術の基礎的運用に習熟することを目的とする。			
授業計画 第1回：イントロダクション（受講生同士の自己紹介を含む導入） 第2回：デジタル一眼レフカメラの機構 第3回：レタッチ基礎 第4回：スチル撮影演習1 （学内・学外を散策しながらマニュアルモードでスチル撮影を行い、組写真を構成する） 第5回：スチル撮影演習2 （前回撮影した写真をもとにPhotoshopでレタッチを行い、授業の終わりに合評を行う） 第6回：スタジオ撮影演習 第7回：ビデオカメラの機構 第8回：ビデオ撮影演習1 （ショットのサイズとカメラワークについて理解する） 第9回：Premiereによる編集基礎1 （Premiereの基本操作と書き出し設定について理解する） 第10回：Premiereによる編集基礎2 （Premiereのマルチトラック編集とサウンド編集について理解する） 第11回：ビデオ撮影演習2 （学内・学外を散策しながらマニュアルモードでビデオ撮影を行う） 第12回：ビデオ撮影演習3 （前回撮影した撮影素材をもとにPremiereで編集と整音を行う） 第13回：ENG撮影演習1			

(業務用カメラおよび録音機材を使用してイマジナリーラインについて理解する) 第14回：ENG撮影演習2 (業務用カメラおよび録音機材を使用してマスターショットについて理解する) 第15回：まとめ
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 教員が用意した授業資料をデータで配付する。
学生に対する評価 各回の課題（25％），各回のコメントシート（25％），課題作品の完成度（50％）によって総合的に評価する。

授業科目名：デジタル画像処理Ⅰ	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2 単位	担当教員名：森田 雅貴 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「マルチメディア表現・マルチメディア技術」		
授業のテーマ及び到達目標 デジタル画像データの扱い方や基礎的な処理技術の修得を目標としています。			
授業の概要 本講義では、デジタル画像の仕組みから基本的な処理技術を修得し、実際にプログラムを動かしながら技術を身につけることを目的としています。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：デジタル画像の撮影 第3回：画像のデジタル化 第4回：グレースケール画像 第5回：カラー画像 第6回：デジタル画像の性質 第7回：濃淡変換 第8回：カラー画像の変換 第9回：フィルタ処理①（平滑化や平均化について学ぶ） 第10回：フィルタ処理②（エッジ抽出と画像の鮮鋭化について学ぶ） 第11回：周波数変換①（フーリエ変換について学ぶ） 第12回：周波数変換②（画像データへの応用） 第13回：周波数変換③（周波数フィルタリングについて学ぶ） 第14回：周波数変換④（空間フィルタリングについて学ぶ） 第15回：まとめ			
テキスト ディジタル画像処理 改訂第二版、CG-ARTS 協会、ディジタル画像処理編集委員会、2020			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 各回のコメントシート（30％）・成果発表（70％）によって総合的に評価する。			

授業科目名：画像解析 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：SKIBBE Henrik 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「マルチメディア表現・マルチメディア技術」		
授業のテーマ及び到達目標 様々なアプリケーションを含む画像解析の基礎を探究する。 画像解析に不可欠な基本的な画像操作のテクニックとアルゴリズムに習熟する。 このコースでは、理論的な概念と Python を使用した実践的な演習を統合し、実際の応用について説明する。			
授業の概要 画像解析の理論的な知識と実践的な Python スキルの融合を目指す。画像操作、特徴抽出、セグメンテーション、パターン分類の基礎を学ぶ。重要な理論を理解し、実際の応用を見据えることを重視して、効果的な画像解析に不可欠なスキルを身につける。			
授業計画 第 1 回：イントロダクション（画像解析とは？コース概要） 第 2 回：画像基礎①（数学の基礎） 第 3 回：画像基礎②（基本的な画像演算子。画像の平行移動、回転、およびスケーリング） 第 4 回：画像解析にプログラミング言語 Python を使用 第 5 回：基本的な画像操作 第 6 回：周波数領域でのフィルタリング 第 7 回：カラー画像処理 第 8 回：モルフォロジー画像処理 第 9 回：基本的な画像分割①（画像強度に基づく画像背景からのオブジェクトのセグメンテーション） 第 1 0 回：基本的な画像分割②（形状に基づく画像背景からのオブジェクトのセグメンテーション） 第 1 1 回：基本的な特徴抽出①（画像の特徴とは何か？） 第 1 2 回：基本的な特徴抽出②（ローカル画像の特徴：局所バイナリパターンと HOG 特徴量） 第 1 3 回：基本的な画像パターン分類 第 1 4 回：画像解析の実践例 第 1 5 回：まとめ 定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 教員が用意したオリジナルの授業資料を電子配付する。			
学生に対する評価 定期試験 40%、小テスト 30%、各回のコメントシート 30%			

授業科目名：音響情報 処理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松浦 一雄 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「マルチメディア表現・マルチメディア技術」		
授業のテーマ及び到達目標 音響情報処理に関する基本的な知識とスキルを身につけ、メディアデザインに応用できる水準に到達することを目標とする。			
授業の概要 音響情報処理は、音楽、携帯電話、オーディオ機器、音声応答や騒音低減など広範な応用を有する。また、物理、数理、電気・電子、通信、情報、信号処理、確率統計、人工知能、言語、心理、生理、医学、建築など多岐の学問に亘る境界領域の研究分野である。本講義では、音響情報処理の基礎的事項について学ぶ。			
授業計画 第1回：イントロダクション（我々の日常生活において広く利用される音、音に関する研究の歴史について理解を深める） 第2回：音の基本的性質と波動理論 第3回：音波の分析法 第4回：電気・機械・音響変換 第5回：音響計測実習①（実際の音響計測について理解を深める） 第6回：音および音楽の記録 第7回：音場の音響信号処理 第8回：音声の基本的性質 第9回：音声分析法 第10回：音声符号化 第11回：音声合成 第12回：音声認識 第13回：音響計測実習②（音声合成や音声認識について理解を深める） 第14回：超音波 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 新音響・音声工学、近代科学社、古井 貞熙、2006			
参考書・参考資料等 必要に応じて、講義資料を配布する。また講義中に参考図書を適宜紹介する。			
学生に対する評価 定期試験(50%)およびレポート課題(50%)により総合的に評価する。			

授業科目名：情報科 教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：忽那 浩 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 共通教科「情報」の指導に関する基礎的・基本的な知識を身に付ける。			
授業の概要 共通教科「情報」の指導内容や授業方法について学び、指導者として指導内容の理解の在り方 や具体的な指導方法についての基礎・基本を身に付ける。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：教科「情報」新設及び改訂の経緯 第3回：情報社会の問題解決 第4回：コミュニケーションと情報デザイン-ICT によるコミュニケーションの在り方 第5回：アルゴリズムの理解を促す教授法 第6回：コンピュータとプログラミングに関する教材づくり 第7回：モデル化とシミュレーションの理解を促す教材づくり 第8回：情報通信ネットワークとデータ利用 第9回：学習指導案及び板書計画の作成（1）目標に沿った授業の構成 第10回：学習指導案及び板書計画の作成（2）授業の設計と方法 第11回：学習指導案及び板書計画の作成（3）全体的な精査 第12回：模擬授業と授業研究（1）授業の展開と構成 第13回：模擬授業と授業研究（2）授業スキル及び ICT の効果的活用 第14回：模擬授業と授業研究（3）総合的な観点から 第15回：まとめと今後の課題 定期試験			
テキスト 「最新 情報Ⅰ」萩谷昌己、実教出版、2022 「高等学校学習指導要領（平成30年告示） 解説 情報編」文部科学省、開隆堂、2019			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリントを配付する。			
学生に対する評価 基礎的な事項の理解度を確認する定期試験（40％）、課題や学習指導案の作成（20％）、 模擬授業を含め授業に参加する意欲や態度（40％）などを総合的に評価する。			

授業科目名：情報科 教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：忽那 浩 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 共通教科「情報」の指導者として主体的・対話的・深い学びに配慮した学習指導案の作成や ICT 機器を活用した授業の指導理論と実践力を身に付ける。			
授業の概要 共通教科「情報」についての指導理論と実践力について学び、指導者として授業の指導力向上を目的とする。			
授業計画 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：学習指導と指導内容の精選 第 3 回：学習指導案の作成 第 4 回：学習指導案と板書計画の作成（1）目標設定と全体的な授業設計 第 5 回：学習指導案と板書計画の作成（2）授業形態と授業評価 第 6 回：模擬授業と授業研究（1）学習指導案と授業の在り方 第 7 回：模擬授業と授業研究（2）授業目標と授業展開の関係 第 8 回：模擬授業と授業研究（3）授業形態と授業方法（ICT の活用を含む） 第 9 回：模擬授業と授業研究（4）教材・教具の活用 第 1 0 回：模擬授業と授業研究（5）生徒の実態や状況を考慮した指導内容 第 1 1 回：模擬授業と授業研究（6）質問・発問の在り方 第 1 2 回：模擬授業と授業研究（7）プレゼンテーション資料や ICT の効果的活用 第 1 3 回：模擬授業と授業研究（8）機器実習の在り方 第 1 4 回：模擬授業と授業研究（9）総合的な観点から 第 1 5 回：まとめと今後の課題 定期試験			
テキスト 「最新 情報Ⅰ」萩谷昌己、実教出版、2022 「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示） 解説 情報編」文部科学省、開隆堂、2019			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリントを配付する。			
学生に対する評価 基礎的な事項の理解度を確認する最終レポート（3 0 %）、学習指導案や板書案の作成（3 0 %）、模擬授業への取り組みや態度（4 0 %）などを総合的に評価する。			

授業科目名： 発達支援の理論と実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：日原尚吾 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
児童生徒の発達の基礎を理解し、現代日本における発達の諸問題について考察を深めることを目標とします。また、児童生徒が自らを主体的に発達させていく過程を促すための、教職員の支援のあり方について理解することを目指します。			
授業の概要			
児童生徒の発達についての基礎的理論を学び、適切な発達支援を考える際の基本的視座を身につけます。とくに現代日本の教育現場で問題視されている発達のなつまずきに焦点を当てて検討します。また、児童生徒の心のありようやその変化を適切にとらえ、支援するための実践的な技法を身につけます。			
授業計画			
第1回： イントロダクション（発達支援とは）			
第2回： 発達の基礎的理解（1） 発達精神病理学の視点			
第3回： 発達の基礎的理解（2） リスク要因とレジリエンス要因			
第4回： 発達の基礎的理解（3） 多様な発達経路と支援			
第5回： 社会性の発達と支援（1） 愛着の発達理論			
第6回： 社会性の発達と支援（2） 愛着障害の支援			
第7回： 認知の発達と支援（1） 認知的発達理論とワーキングメモリ			
第8回： 認知の発達と支援（2） 学習面でのつまずきと支援			
第9回： パーソナリティの発達と支援（1） パーソナリティの発達理論			
第10回： パーソナリティの発達と支援（2） パーソナリティ発達でのつまずきと支援			
第11回： 発達支援におけるコミュニケーションのありかた			
第12回： 個人・集団に対する発達支援の過程			
第13回： 発達支援における支援者の態度と理論			
第14回： 発達支援の評価			
第15回： まとめ（教師にできる発達支援）			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
『発達精神病理学：子どもの精神病理の発達と家族関係』（E. M. カミングス・P. T. デイヴィーズ・S. B. キャンベル 著、菅原ますみ 監訳、2000 年、ミネルヴァ書房）			
『ワーキングメモリと発達障害：教師のための実践ガイド』（T. P. アロウェイ・R. G. アロウェイ 著、湯澤正通・湯澤美紀 監訳、2023 年、北大路書房）			
『カウンセリングの実際』（河合隼雄・河合俊雄、2009 年、岩波書店）			
上記の他に必要に応じて、適宜、参考文献を紹介し、資料を配布する。			
学生に対する評価			
授業毎の小レポート（50％）、期末レポート（50％）。			

授業科目名： 子ども理解演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：伊勢本大 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 非一条校の民間施設における、様々な子どもへの実践を経験的に学び、学校教育（制度）の意義や課題、さらには教師の役割に対する考察を深めることで、子どもを理解する上で必要な視点の涵養を目標とする。			
授業の概要 本授業ではまず、日本における学校教育の目的や機能、そして教師の役割について学びます。その上で、不登校の子どもに対するかかわり、本授業ではとくにフリースクールにおける実践に焦点を当て、子どもを理解することの多義性・多様性について検討します。 ※なお、本授業は、大学キャンパスを離れて授業時間外での宿泊を伴う施設見学や調査活動を行う予定です。			
授業計画 第1回： イントロダクション：学校教育とは何か 第2回： 家庭環境と教育機会の不平等 第3回： 学校と社会のつながり 第4回： 子どもが学校に行く意味・休む意味 第5回： 不登校経験者による「苦悩」と「葛藤」 第6回： 非一条校としてのフリースクール 第7回： フリースクールの歴史的展開 第8回： フリースクールの運営とその実態 第9回： フリースクールにおける職員の実践 第10回： フリースクールに通う子どもの多様なニーズ 第11回： フリースクールを利用する保護者の多様なニーズ 第12回： フリースクールにおける子どもの進路形成 第13回： フリースクールからの子どもの「卒業」 第14回： フリースクールからみた学校（教育） 第15回： まとめ（教師に求められる子ども理解とは） 定期試験は実施しない。			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 貴戸理恵、2004、『不登校は終わらない』新曜社 滝川一廣、2012、『学校へ行く意味・休む意味』日本図書センター 広田照幸、2022、『学校はなぜ退屈でなぜ大切なのか』筑摩書房 ※上記の他に必要に応じて、適宜、参考文献を紹介し、資料を配布する。			
学生に対する評価 授業に対する取り組みの積極性（50％）、見学・体験活動に対する報告・考察（50％）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：日野弘子
学校経営と学校図書館	選択科目	2 単位	担当形態：単独
科 目		大学が独自に設定する科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
1．学校図書館の役割や機能について理解できる。			
2．司書教諭が果たすべき役割および他の職員や施設との連携について理解できる。			
授業の概要			
学校図書館の果たす役割と意義、および司書教諭の在り方について理解する。			
授業計画			
第1回： イントロダクション			
第2回： 学校図書館の理念と教育的意義			
第3回： 学校図書館の歴史と変遷			
第4回： 学校図書館法の意義と内容			
第5回： 各種法令等と学校図書館、学校図書館の現状と課題			
第6回： 学校図書館経営の実際(1)小学校図書館訪問			
第7回： 学校図書館の組織と職員			
第8回： 司書教諭の役割と学校司書との連携			
第9回： 学校図書館経営の実際(2)中学校図書館訪問			
第10回： 学校図書館の施設・設備			
第11回： 学校図書館活動の役割と内容、相互協力とネットワーク			
第12回： 学校図書館経営の実際(3)高等学校図書館訪問			
第13回： 学校図書館メディアの選択と提供、検索方法			
第14回： 学校図書館における評価と展望			
第15回： まとめ			
定期試験			
テキスト			
「図書館情報学基礎資料第4版」今まど子・小山憲司編著、樹村房、2022			
参考書・参考資料等			
「探究 学校図書館学 第1巻 学校経営と学校図書館」全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会編著、全国SLA、2019			
「学校経営と学校図書館 改訂二版」野口武悟・前田稔編著、放送大学教育振興会、2023			
「『学校図書館ガイドライン』活用ハンドブック解説編」堀川照代編著、悠光堂、2018			
「『学校図書館ガイドライン』活用ハンドブック実践編」堀川照代編著、悠光堂、2019			
「どう使う？ 学校図書館と1人1台端末 はじめの一步」全国学校図書館協議会「どう使う？ 学校図書館と1台端末 はじめの一步」編集委員会編著、全国SLA、2022			
「確かめながら 学校図書館と1人1台端末 広がる！つながる！学校図書館」全国学校図書館協議会「確かめながら 学校図書館と1人1台端末 広がる！つながる！学校図書館」編集委員会編著、全国SLA、2023			
上記の他にも、必要に応じて資料を配布する。			
学生に対する評価			
最終試験40％、レポート20％、平常点（ビブリオトーク、話し合い等を含む）40％			

授業科目名： 学校図書館メディア の構成	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：日野弘子 担当形態：単独
科 目		大学が独自に設定する科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
1. メディア専門職としての知識・技能を身につけることができる。 2. 目録と分類に関する基本的スキルを習得することができる。			
授業の概要			
学校図書館メディアについて理解し、その選択と提供に関する実務能力を身につける。			
授業計画			
第1回： イントロダクション			
第2回： 学校図書館メディアの教育的意義			
第3回： 学校図書館メディアの種類と特性			
第4回： 学校図書館メディアの選択と収集			
第5回： 学校図書館メディアの組織化			
第6回： 学校図書館メディアの配置と情報ファイル資料			
第7回： NIEおよびパスファインダー			
第8回： 組織化の実際（1）分類法			
第9回： 組織化の実際（2）日本十進分類法			
第10回： 組織化の実際（3）目録法			
第11回： 組織化の実際（4）コンピュータ目録			
第12回： 組織化の実際（5）件名法			
第13回： 多様性に応える学校図書館メディア			
第14回： メディア検索の実際（於：松山大学図書館）			
第15回： まとめ			
定期試験			
テキスト			
「図書館情報学基礎資料第4版」今まど子・小山憲司編著、樹村房、2022			
参考書・参考資料等			
「探究 学校図書館学 第2巻 学校図書館メディアの構成」全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会編著、全国SLA、2020			
「学校図書館メディアの構成」米谷優子・呑海沙織編著、放送大学教育振興会、2022			
上記の他にも、必要に応じて資料を配布する。			
学生に対する評価			
最終試験40％、レポート20％、平常点（ミニ課題、ビブリオバトル等を含む）40％			

授業科目名：学習指導と学校図書館	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：戸荏 真人
			担当形態：単独
科 目		大学が独自に設定する科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 学習情報センターとしての学校図書館の機能を正しく理解できている。 発達段階に応じた学校図書館メディアの選択や授業支援の方法について理解できている。 授業づくりを支援する司書教諭の役割と任務、学校司書との連携について理解できている。			
授業の概要 学習情報センターとしての学校図書館の機能を中心に、発達段階に応じた学校図書館メディアの選択や授業支援の方法について理解を図る。 授業づくりを支援する司書教諭の役割と任務、学校司書との連携について、具体的な理解を図る。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：教育課程と学校図書館 第3回：学習センター機能と情報センター機能の整備と活用 第4回：発達段階に応じた学校図書館メディアの選択 第5回：学校図書館の利用指導 第6回：校内体制の構築・教員への支援と働きかけ 第7回：生徒対象の広報活動 第8回：教育活動における学校図書館の活用（学校司書との協働） 第9回：学校図書館の情報サービス（レファレンスサービス） 第10回：探究的な学習指導と情報活用能力の育成①テーマ設定 第11回：探究的な学習指導と情報活用能力の育成②情報の収集 第12回：探究的な学習指導と情報活用能力の育成③情報の整理・分析 第13回：探究的な学習指導と情報活用能力の育成④まとめと評価 第14回：ホームルーム活動の指導における学校図書館の活用 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 学習指導と学校図書館（探究 学校図書館学 3巻）、「探究 学校図書館学」編集委員会、全国学校図書館協議会、2020			
参考書・参考資料等 学習指導と学校図書館、齋藤泰則、樹村房、2016 思考を深める探究学習、桑田てるみ、全国学校図書館協議会、2016 どう使う？学校図書館と1人1台端末 はじめの一步、全国S L A、全国学校図書館協議会、2022 「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック解説編、堀川照代、悠光堂、2018 「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック実践編、堀川照代、悠光堂、2019 その他必要に応じて資料を配布する。			
学生に対する評価 最終試験またはレポート課題 60%、平常点（授業時の対応、リアクション・シート、演習等を含む）40%			

授業科目名：読書と豊かな人間性	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：戸荊 真人
			担当形態：単独
科 目		大学が独自に設定する科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
1 読書の意義を理解し、読書が豊かな人間性を育む上で必要であるという視点を身につける。			
2 生徒を読書に誘う種々の手法やスキルを身につける。			
授業の概要			
読書の意義を理解し、読書が豊かな人間性を育む上で必要であるという視点を身につける。			
読書指導の方法を体験し、必要な知識・技能を身につける。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 読書生活の振り返り			
第2回：読書の意義と心の教育			
第3回：学校教育における読書活動の現状と子どもの読書をめぐる状況			
第4回：学校図書館の機能の充実に向けて			
第5回：発達段階に応じた読書資料の種類と整備計画			
第6回：魅力的な図書館空間の構築			
第7回：本との出会いを促すために(1) アニマシオン・ビブリオバトル・ビブリオトーク			
第8回：本との出会いを促すために(2) ビブリオバトル・ビブリオトーク (演習)			
第9回：本との出会いを促すために(3) POPの効用と作成方法の理解			
第10回：本との出会いを促すために(4) POPの作成 (演習)			
第11回：本との出会いを促すために(5) 役割のある読書会 リテラチャー・サークル			
第12回：本との出会いを促すために(6) 役割のある読書会 リテラチャー・サークル (演習)			
第13回：読書感想をひらく			
第14回：図書委員会活動の活性化			
第15回：まとめ			
テキスト			
探究 学校図書館学4 読書と豊かな人間性、「探究 学校図書館学」編集委員会、全国学校図書館協議会、2020			
参考書・参考資料等			
みんなで作ろう学校図書館、成田康子、岩波ジュニア新書、2012			
読書教育を学ぶ人のために、山元隆春、世界思想社、2015			
ビブリオバトルハンドブック、ビブリオバトル 普及委員会、子どもの未来社、2015			
本を読んで語り合うリテラチャーサークル実践入門、訳 山元隆春、溪水社、2013			
子どもが必ず本好きになる 16の方法 実践アニメシオン、有元秀文、合同出版、2014			
必要に応じて資料を配布する。			
学生に対する評価			
定期試験またはレポート課題 60%、平常点（授業時の対応、リアクション・シート、演習等を含む）40%			

授業科目名： 道徳教育の理論と方法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：班婷 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ			
日本の道徳教育の特徴を歴史及び他国との比較から学習し、各々の教育方法・発達理論について特徴を理解したうえで、学習指導要領及びその解説に基づいた授業のデザインができることを目指す。			
授業の概要			
道徳教育の歴史・理論・実践を学習することで、道徳性の発達に関する多角的な見方を獲得するとともに、様々な指導法の基礎的理解や学習指導要領をふまえて、具体的な指導過程を構想できるようになることを目指す。			
授業計画			
【第一ステージ：学校教育における道徳教育の位置づけを理解する】			
第1回 学習指導要領における道徳教育の位置づけ：「特別の教科 道徳」の特徴			
第2回 学校教育活動全体を通じた道徳教育：全体計画と年間指導計画			
第3回 日本の道徳教育の歴史：戦前の「修身」から戦後の特設化まで			
第4回 世界の道徳教育：韓国、アメリカ、イギリスを中心に			
【第二ステージ 道徳教育の方法と指導案の作成・模擬授業の実施】			
第5回 道徳教育の方法（1）：自我関与を中心とした授業の方法			
第6回 道徳教育の方法（2）：役割演技・体験活動を取り入れた授業の方法			
第7回 指導案の作成・模擬授業（1）：価値の自覚を伴う読物資料を用いた授業デザイン			
第8回 道徳教育の方法（3）：コールバーグの道徳性発達理論とモラル・ジレンマ授業			
第9回 道徳教育の方法（4）：話し合いや問題発見・解決過程を取り入れた授業の方法			
第10回 指導案の作成・模擬授業（2）：話し合いを促す読物資料を用いた授業デザイン			
第11回 道徳科の特性を踏まえた学習評価のあり方：励ます個人内評価の具体的な展開			
【第三ステージ 道徳教育の実践に向けて】			
第12回 資料の様々な活用：「手品師」の資料分析を通じて道徳的価値の理解を深める			
第13回 道徳教育の模擬体験（1）：いのちをめぐる体験活動を生かした授業の具体像			
第14回 道徳教育の模擬体験（2）：参加型学習を取り入れた人権教育（いじめ問題への対応）			
第15回 愛媛県の資料を活用した道徳授業			

テキスト

- ・中学校学習指導要領解説―道徳編（平成29年7月 文部科学省 教育出版）

参考書・参考資料等

- ・価値観を広げる道徳授業づくり（令和2年 高宮正貴 北大路書房）
- ・私たちの道徳（中学校）（平成26年 文部科学省 廣済堂あかつき）
- ・道徳授業で大切なこと（平成25年 赤堀博行 東洋館出版社）
- ・学校における対話とコミュニティの形成（平成25年 荒木寿友 三省堂）
- ・豚のPちゃんと32人の小学生（平成15年 黒田恭史 ミネルヴァ書房）
- ・道徳教育はホントに道徳的か？（平成23年 松下良平 日本図書センター）

学生に対する評価

最終レポート（40％）、指導案の作成・模擬授業の実施（30％）、毎授業後の授業参画シー
トの提出（30％）を基に総合的に評価する。

授業科目名：日本国憲法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：牧本 公明
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
「憲法」の内容・意味・趣旨を正確に理解できる。			
「憲法」と自分達の日常生活がどのような関わりを持っているのかを説明できる。			
授業の概要			
本講義では日本国憲法の中でも特に基本的人権の分野を中心に取り上げる。講義を通して社会の様々な問題を「憲法的」に思考する視点を獲得することを目的とする。			
授業計画			
第1回：立憲主義ってそんなに大事なの？－憲法の基礎			
第2回：人権ってどんな権利だろう？－人権の理念・歴史・特質			
第3回：それって人権問題？－人権総論①（人権の享有主体）			
第4回：それって人権問題？－人権総論②（憲法規定の私人間効力）			
第5回：さまざまな価値観を尊重するために－信教の自由と政教分離①（信教の自由）			
第6回：さまざまな価値観を尊重するために－信教の自由と政教分離②（政教分離原則）			
第7回：スクープなら何を書いても許される？－表現の自由①（表現の自由の価値と制限）			
第8回：スクープなら何を書いても許される？－表現の自由②（報道の自由、学問の自由）			
第9回：どこで何をして暮らしてもいいの？－経済的自由①（職業選択の自由、居住移転の自由）			
第10回：どこで何をして暮らしてもいいの？－経済的自由②（財産権）			
第11回：もしも逮捕されたら？－人身の自由①（適正手続の保障と罪刑法定主義）			
第12回：もしも逮捕されたら？－人身の自由②（被疑者及び被告人の権利）			
第13回：もっと支え合える社会へ－社会権			
第14回：自由って何をしてもいいこと？－幸福追求権と平等			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
プレステップ憲法（第4版）、駒村圭吾編、弘文堂、2024			
参考書・参考資料等			
憲法（第8版）、芦部信喜・高橋和之補訂、岩波書店、2023			
目で見る憲法（第5版）、初宿正典・大沢秀介・高橋正俊・常本照樹・高井裕之編著、有斐閣、2018			
憲法（第7版）、長谷部恭男、新世社、2018			
新基本法コンメンタール憲法、芹沢斉・市川正人・阪口正二郎編、日本評論社、2011			
立憲主義と日本国憲法（第5版）、高橋和之、有斐閣、2020			
原則的に教科書及び配布するレジュメプリントを使用しながら講義を進めていく。			
学生に対する評価			
授業期間中に実施するレポート課題（30%）、定期試験の結果（70%）をもって成績評価とする。			

授業科目名：体育 (教職)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：田中 英登、 村山 俊一郎
			担当形態：クラス分け・単 独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
生涯を通じてスポーツ（運動）に取り組む習慣を身に付けるとともに、様々なスポーツ種目の 基本技能やルールなどを修得できる。 スポーツゲームの企画・運営できる。 自分や他人の安全を保つことができる能力を身に付け、安全に運動を行うことが出来るように なる。			
授業の概要			
学校教育活動には、教科教育のみならず学校行事や課外活動等の指導も含まれる。そこでは児童・生徒の安全を守るために、発達段階に応じた指導方法や内容の工夫、安全に配慮した企画 や運営といった能力が求められる。 本授業では、スポーツを通して、自身の体力の保持増進を図るとともに、集団統率能力の育 成、緊急時の対応について学ぶことを目的とする。			
授業計画			
第 1 回：イントロダクション			
第 2 回：バレーボール運動の基本技能練習①バレーボール運動におけるウォーミングアップ法 の理解、パス技術の習得			
第 3 回：バレーボール運動の基本技能練習②サーブ及びサーブレシーブの習得			
第 4 回：バレーボール運動の基本技能練習③サーブレシーブから攻撃につなげるアタックまで の習得			
第 5 回：バレーボールゲームの審判法及びゲーム運営法の理解			
第 6 回：バレーボールゲームの運営①男女別ゲーム等			
第 7 回：バレーボールゲームの運営②男女混合ゲーム等、バレーボール運動のまとめ			
第 8 回：ネット型スポーツ：バドミントン運動の基本技能練習とバドミントン競技の理解			
第 9 回：シングルスゲーム法と戦術理解			
第 1 0 回：ダブルスゲーム法と戦術理解			
第 1 1 回：バドミントンにおける団体戦法の運営①			
第 1 2 回：バドミントンにおける団体戦法の運営②バドミントン運動まとめ			
第 1 3 回：各種泳法の理解①プール運動での注意点の確認、水泳運動の導入から			
第 1 4 回：各種泳法の理解②タイムトライアル（能力別計測など）			
第 1 5 回：着衣泳、救助方法の理解			
第 1 6 回：救急処置法（一次救命処置）の理解・実践			
第 1 7 回：救急処置法（心肺蘇生法と AED 使用法）の理解・実践			
第 1 8 回：テニスの基本技能①ラケットティング、ストローク			
第 1 9 回：テニスの基本技能②ストロークコース打ち分け、ボレー			
第 2 0 回：テニスの基本技能③サービスとリターン			
第 2 1 回：テニスの基本技能④ボレー、スマッシュ			
第 2 2 回：テニス シングルスゲーム法の理解・実践			
第 2 3 回：ダブルスゲームを理解する①基本的な陣形とプレーヤーの動き			
第 2 4 回：ダブルスゲームを理解する②応用の動き方			
第 2 5 回：ダブルスゲーム審判法、ゲーム運営を理解する①			
第 2 6 回：ダブルスゲーム審判法、ゲーム運営を理解する②前回個人の反省点を確認して実施			

第27回：テニスのチーム戦の企画・運営①日目 第28回：テニスのチーム戦の企画・運営②日目 前回の反省点を確認して実施 第29回：テニスのチーム戦の企画・運営③日目 テニス運動のまとめ 第30回：まとめ
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 必要に応じて、授業時に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 受講態度（積極性、指導性など）50%、技能習熟度・進捗度 30%、レポート 20%

授業科目名：総合英語ⅠA	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：池上 真人、神谷 厚徳、西村 嘉人、細川 美苗、八鳥 吉明
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標（学修する学生の到達目標） 授業のテーマは、「英語表現力を伸ばす」です。生成系 AI などの誕生により、即時的ではないコミュニケーションについては、かなりの部分を AI が担えるようになってきました。しかし一方で、依然として、相手との感情のやり取りなどを含んだ日常的な会話など機械に頼らずに行う必要があるコミュニケーションも存在します。そのため、この授業では、日常的に使われる語彙やチャンクのまとまりでフレーズを学びながら、簡単な英語による会話を実践できるようになることを目標とします。			
授業の概要 この授業では、日常会話を場面に分け、また必要な語彙や語句を学び、実際にロールプレイをしながら、会話力や表現力を高めていきます。この授業では、週3時間の学修（授業内2時間、授業外の予習復習1時間）を必要とします。			
授業計画 第1回：イントロダクションと課題の説明、初対面での会話 第2回：相手を褒める 第3回：聞き直す 第4回：付け加える 第5回：相槌をうつ 第6回：相手の話に興味を示す 第7回：お礼を言う 第8回：苦情を言う 第9回：謝る 第10回：話したくないと言う 第11回：頼む 第12回：誘う 第13回：断る 第14回：口調を和らげる 第15回：会話を切り上げる、全体のまとめ 定期試験は行わない。			
テキスト K. Murata, M. Otani, Y. Murata, and Y. Shigemitsu, “Keep talking” 桐原書店, 2016			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 授業への取組み 30%、各回の提出課題 40%、定期課題 30%で評価する。			

授業科目名：英語演習 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：池上 真人 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 外国語の学習には、授業の中で学ぶような「知識」を増やす学習と、学んだ知識を「自動化」して実際に使えるようにするため、反復練習によって「訓練」をする学習とがあり、どちらもバランスよく学習しなければ英語力は伸びません。この授業では、主に「訓練」の部分にあたる部分の学習をし、英語運用力を伸ばします。			
授業の概要 英語運用能力を伸ばすためには、大量の問題を繰り返し学習する必要があります。この授業では、それぞれのレベルに合わせたリーディング、リスニング、文法の各受容技能の問題を解き、間違えた問題を繰り返し学修します。1週間の学習の目安は3時間（授業内2時間、授業外1時間）で、15週間で45時間の学習が必要です。各自の学習進度や学習態度については担当者が常にチェックし、必要に応じて指導やアドバイスをを行います。			
授業計画 第1回：ガイダンス(授業の目標、進め方、予習・復習などの説明) 第2回：リーディング(局所的な理解)、リスニング(Part1)、文法(名詞、比較) 第3回：リーディング(局所的な理解)、リスニング(Part2)、文法(形容詞、否定) 第4回：リーディング(全体的な理解)、リスニング(Part3)、文法(仮定法、接続詞) 第5回：リーディング(全体的な理解)、リスニング(Part4)、文法(代名詞、分詞) 第6回：リーディング(推測による理解)、リスニング(Part1, 2)、文法(強調・倒置・同格、不定詞) 第7回：リーディング(推測による理解)、リスニング(Part3, 4)、文法(文型、関係詞) 第8回：復習1 第9回：リーディング(局所的な理解)、リスニング(Part1)、文法(時制、動名詞) 第10回：リーディング(局所的な理解)、リスニング(Part2)、文法(助動詞、完了形) 第11回：リーディング(全体的な理解)、リスニング(Part3)、文法(前置詞、受動態) 第12回：リーディング(全体的な理解)、リスニング(Part4)、文法(冠詞、疑問詞) 第13回：リーディング(推測による理解)、リスニング(Part1, 2)、文法(名詞構文、無生物主語) 第14回：リーディング(推測による理解)、リスニング(Part3, 4)、文法(副詞、話法) 第15回：復習2 定期試験			

テキスト

授業内で必要な教材を配信する。

参考書・参考資料等

川崎芳人ほか「総合英語Evergreen」 いいずな書店、2022

学生に対する評価

授業に対する取組み(50%)、定期試験(50%)

授業科目名：コンピュータ概論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2 単位	担当教員名：島田 毅
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
社会人として最低限知っておくべき ICT に関する知識が理解できる。			
授業の概要			
社会人として必要な ICT の素養を身に付けることを目的とする。コンピュータの区別，各種記録メディアなどユーザーに近いデバイスから，コンピュータ内部のデバイスやネットワークの理解へと知識の範囲を拡げる。			
授業計画			
第 1 回：イントロダクション			
第 2 回：I T の概要と専門用語①（コンピュータの種類、データ表記法、文字コード）			
第 3 回：I T の概要と専門用語②（データ型、単位、量、性能）			
第 4 回：I T の概要と専門用語③、練習問題（トラブルシューティング）			
第 5 回：インフラストラクチャ①（入出力デバイスインタフェース、内部コンポーネント）			
第 6 回：インフラストラクチャ②、練習問題（インターネットサービスのタイプ、ストレージの種類、基本的なネットワークの概要、無線ネットワーク）			
第 7 回：アプリケーションとソフトウェア①（モバイルデバイスの OS、OS の特性、フォルダ・ファイル管理、ソフトウェアツール）			
第 8 回：アプリケーションとソフトウェア②（ソフトウェアの使用目的・適切な使用方法、アプリケーションアーキテクチャ・デリバリモデル、インストール・アップデート）			
第 9 回：アプリケーションとソフトウェア③、練習問題（ウェブブラウザの設定・利用、アプリケーションの概要）			
第 1 0 回：ソフトウェア開発の概要			
第 1 1 回：データベースの基礎、練習問題			
第 1 2 回：セキュリティ①（機密性・完全性・可用性、デバイスのセキュリティ保護）			
第 1 3 回：セキュリティ②（物理的問題への対処、人的・技術的問題への対処、主な脅威の予防・対策）			
第 1 4 回：セキュリティ③、練習問題（安全な環境を維持するための適切な手順、行動上のセキュリティ他）			
第 1 5 回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
IT Fundamentals ICT 教育の必修科目、翔泳社、越智 徹・出木原 裕順・間島 利也・宮崎 龍二・佐藤 雅一・（株）ウチダ人材開発センタ 著、2015			
ITF+ IT Fundermentals 問題集と解説（ズバリよく出る）、エミールプランニング、エミール総合学院著、2020			
参考書・参考資料等			
必要に応じて資料を配布する。			
学生に対する評価			
復習レポート（10%）、定期試験（90%）			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：班婷 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ この授業では、教育の理念および教育の歴史や思想について学びます。教育に関する理論や歴史について基本的な理解を深め、また、現代の学校や教育を支える教育理念について、さまざまな視点から考察を深めることを目標とします。			
授業の概要 日本および海外諸外国における教育史や教育思想について理解を深め、現代の教育を考える際の基本的知識ならびに基本的視座を身につけます。とりわけ学校に焦点を当て、その意義や役割の変遷をふまえたうえで、現代の教育問題や教育改革等の動きにも理解を深め、広い視野に立って現代の学校や教育を考察できるようになることを目指します。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 教育の本質と目標、基本的概念 第3回 子どもに関わる教育思想 第4回 学校や学習に関わる教育思想 第5回 近代教育制度の成立と展開①：西洋編 第6回 近代教育制度の成立と展開②：日本・東洋編 第7回 大正新教育の理論と実践 第8回 戦後の教育改革 第9回 日本の教育事情、教育政策の動向 第10回 世界の教育制度、教育政策の動向 第11回 教育の現代的課題① 不登校とオルタナティブ教育 第12回 教育の現代的課題② 障害とインクルーシブ教育 第13回 学校教育を担う教師の職務と役割 第14回 教師観と教員養成理念 第15回 まとめ：教育とは何か 定期試験			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			

参考書・参考資料等

安彦忠彦、石堂常編『最新教育原理』勁草書房、2010年。

佐々木正治編『新中等教育原理』福村出版、2010年。

田代直人・佐々木司編『新しい教育の原理 現代教育学への招待』ミネルヴァ書房、2010年。

田嶋一ほか著『やさしい教育原理 新版補訂版』有斐閣、2011年。

安彦忠彦ほか編著『よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房、2012年。

内海崎貴子著『教職のための教育原理』八千代出版、2015年。

木村元・汐見稔幸編著『教育原理』ミネルヴァ書房、2020年。

学生に対する評価

授業に対する取り組みの積極性（20％）と定期試験の成績（80％）により総合的に評価します。参考書のほか、新聞や雑誌などをもとに、現代の教育問題について学習してください。

授業科目名： 教師論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊勢本大 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
教育改革の進展や教育環境の変化などにより、教師に求められることも大きく変わろうとしています。そうした現状を踏まえ、教職に必要な資質や能力、学校の在り方など、教員の職務内容をはじめとした仕事や役割について考察するとともに、教職に対する動機づけを図り、未来を切り拓くことのできる教師の育成を目指します。			
授業の概要			
教職の意義や教員の職務の内容などを、実際の学校生活や普遍的なできごと、時事問題などさまざまな視点から捉え、教職に就くための心構えをはじめ、教師に必要な資質・能力について学びます。			
授業計画			
第1回： イントロダクション：これまでに会った「先生」			
第2回： 職務の意義をめぐる教師の義務と権利			
第3回： 日本国憲法・教育基本法・児童の権利条約と子どもの権利			
第4回： 日本における教員養成と教師の歴史			
第5回： 教師の文化と専門性のゆくえ			
第6回： 多文化共生社会と教師			
第7回： 「学び」に誘う教師に求められること			
第8回： 生徒指導と教育相談の課題／キャリア教育			
第9回： 保護者・地域住民との連携と教師の役割			
第10回： 「チームとしての学校」に求められる教師の役割			
第11回： 現代社会の教育課題と教師			
第12回： 教職をめぐる労働問題			
第13回： 教師のメンタルヘルス			
第14回： 学び続ける教師としての成長・発達（キャリア形成と研修）			
第15回： 総括			
定期試験			
テキスト			
大家まゆみ・本田伊克編『これからの教師論』ナカニシヤ出版 2022年			

参考書・参考資料等

秋田喜代美・藤江康彦編、『これからの教師研究』東京図書、2021年

佐久間亜紀・佐伯胖編、『現代の教師論』ミネルヴァ書房 2019年

久富善之・長谷川裕編『第2版 教育社会学』学文社 2019年

秋田喜代美・佐藤学著『新しい時代の教職入門 改訂版』有斐閣 2015年

油布佐和子『現代日本の教師』放送大学教育振興会 2015年

学生に対する評価

定期試験（70％）、課題等（30％）を基準として総合的に評価します。

授業科目名： 比較教育制度学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：班婷 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 比較教育学の手法を用い、諸外国および日本の教育原理や制度の特色について基礎的な知識を身につけるとともに、そこに内在する教育の諸課題について理解することができる。			
授業の概要 １．比較教育学の特質や歴史的展開について理解する。 ２．国や地域の教育原理や教育制度の特色について理解する。 ３．自分なりの問題関心をもって各国の教育原理や教育制度を比較し、国や地域の多様な教育の特色についての理解を深める。			
授業計画 第1回：比較教育学の発展 第2回：現代における比較・国際教育学の意義 第3回：比較教育学の技法（国際調査と地域研究の可能性と課題） 第4回：諸外国の教育原理と教育制度（1）ヨーロッパ 第5回：諸外国の教育原理と教育制度（2）アメリカ 第6回：諸外国の教育原理と教育制度（3）東アジア 第7回：諸外国の教育原理と教育制度（4）東南アジア 第8回：諸外国の教育原理と教育制度（5）南アジア 第9回：諸外国の教育原理と教育制度（6）アフリカ 第10回：東アジアの教育（1）中国の社会と教育 第11回：東アジアの教育（2）韓国の教育理念と実践 第12回：東アジアの教育（3）教育の質と教育格差について 第13回：学校の地域的役割の国際比較から見た日本の学校（1）（地域との連携・つながり） 第14回：学校の地域的役割の国際比較から見た日本の学校（2）（生徒の生命・安全の観点） 第15回：まとめ－各国の教育制度をめぐる諸課題について－ 定期試験は実施しない。			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			

学生に対する評価

レポート試験（50％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30％）、授業中の発表や発言（20％）

授業科目名： 教育と社会・制度	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：作田良三 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
日本の学校教育について、現代公教育の理念や教育制度の仕組みなど、制度的な基礎知識を習得し、社会的状況の変化や学校―地域の連携など、社会とのかかわりにおいてその役割や機能を考察することをめざす。また、安全教育を含めた生徒管理のあり方など、教師が現代日本において担うべき役割等について、社会状況の変化や教育政策の動向をふまえ理解を深める。			
授業の概要			
日本の社会状況の変化、それに伴う子どもの生活・環境の変化をふまえ、現代公教育制度の基礎的理解を深めると同時に、教育政策の動向を理解し、地域における学校の役割や学校―地域の連携、安全教育を含めた生徒管理のあり方など、地域社会における学校にも目を向け、教師として担うべき役割の理解をうながす。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（現代の学校が直面する問題への気づき）			
第2回：日本における学校の成立と展開			
第3回：公教育制度の原理と理念			
第4回：子ども・学校を取り巻く社会の変化			
第5回：子ども生活の変化と教師の指導			
第6回：教育課程行政の現状と課題―カリキュラムと学力・教科書―			
第7回：教職員管理の現状と課題―職務・服務規程―			
第8回：生徒管理の現状と課題―安全管理・問題行動―			
第9回：教員養成・研修の現状と課題			
第10回：教師の生活史からみる家庭・地域・学校			
第11回：開かれた学校づくりと地域との協働			
第12回：生徒の安全を守る学校体制づくりと地域との連携			
第13回：学校の社会的機能（1）―社会化・正統化―			
第14回：学校の社会的機能（2）―社会的選抜―			
第15回：教育改革のゆくえ			
定期試験			
テキスト			
特に指定しない。			

参考書・参考資料等

山崎博敏編著『教育の制度と社会』協同出版、2014年。

篠原清昭編著『教育の社会・制度と経営』ジダイ社、2018年。

学生に対する評価

授業に対する積極的な態度（20％）と定期試験（80％）をもとに、総合的に判断する。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：日原尚吾 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ			
教育心理学とは、心理学の一分野であり、特に教育過程における人の心の働きを理解しようとする学問である。本授業では、教育心理学の知見について理解し、教育活動で生じている現象を心理学的な視点で捉えようとする姿勢を身につけることを目標とする。			
授業の概要			
本授業では、児童生徒の発達の理解、学習・思考・知能・記憶の理論やメカニズム、性格の理解とその形成の問題、意欲や教授法、評価、学級集団と教師との関係、障害などの困難を抱える児童生徒の理解、などを取り上げる。教育心理学の知見を学び、実践で生かしていけるよう理解を深めることを目指す。			
授業計画			
第 1 回：イントロダクション（心理学、教育心理学とは）			
第 2 回：心身の発達①（発達の考え方）			
第 3 回：心身の発達②（知的発達）			
第 4 回：心身の発達③（人格発達）			
第 5 回：学習のメカニズム①（記憶）			
第 6 回：学習のメカニズム②（知識、思考）			
第 7 回：学習のメカニズム③（条件づけ）			
第 8 回：意欲、動機づけ			
第 9 回：教授方法、学習指導の形態			
第 1 0 回：学級集団と教師との関係			
第 1 1 回：児童生徒の評価			
第 1 2 回：障害などの困難を抱える児童生徒の理解			
第 1 3 回：カウンセリングとは			
第 1 4 回：教育心理学と教育実践			

第15回：まとめ 定期試験
テキスト 『やさしい教育心理学』（鎌原雅彦・竹網誠一郎 著、2019年、有斐閣）
参考書・参考資料等 『あなたの経験とつながる教育心理学』（杉村伸一郎・三宅英典 著、2023年、ミネルヴァ書房） その他、授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 授業における課題（20%）、定期試験（80%）

授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊勢本大 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ			
1. 特別支援教育及びインクルーシブ教育の現状を知り、発達障害等のある幼児児童生徒（またはその疑いのある子を含む）の正しい理解と認識を深めるとともに、特別支援教育・インクルーシブ教育の目標と今日的課題を理解できる。			
2. 多様な視点から、通常の学級に在籍する幼児児童生徒の中で、いわゆる「気になる子、個別の支援や教育的配慮が必要な子」への対応について概要を理解できる。			
3. 多様な視点から「障害がある子」への対応についても概要を理解できる。			
4. 特別な支援を必要とした子どもにかかわる意欲と関心、態度を身につける。			
授業の概要			
本授業では、発達障害等のある子（またはその疑いのある子を含む）をはじめとして、様々な困難・障害のある子への正しい理解と認識を深めるために、特別支援教育・インクルーシブ教育の理念・本質、目標、現状と今日的課題について概説する。			
その上で、多様な観点から、通常の学級に在籍する子、いわゆる「気になる子、個別の支援や教育的配慮が必要な子」への対応、合理的配慮とそれに関わる指導法について概説する。			
授業計画			
第1回：特別支援教育とはなにか			
第2回：特別支援教育の教育課程①（学校教育法施行規則及び学習指導要領）			
第3回：特別支援教育の教育課程②（「通級による指導」と「自立活動」の位置づけと内容）			
第4回：視覚障害・聴覚障害・知的障害等さまざまな障害特性の理解			
第5回：発達障害特性への理解と支援①（LDの学習／生活上の困難）			
第6回：発達障害特性への理解と支援②（ADHDの学習／生活上の困難）			
第7回：発達障害特性への理解と支援③（ASDの学習／生活上の困難）			
第8回：多様な教育的ニーズのある子どもへの理解と支援①（外国籍のある子ども）			
第9回：多様な教育的ニーズのある子どもへの理解と支援②（貧困・社会的マイノリティ）			
第10回：インクルーシブ教育をめぐる実践			
第11回：教育実践におけるユニバーサルデザインと合理的配慮			
第12回：個別の指導計画に関する作成方法とその意義			
第13回：個別の教育支援計画に関する作成方法とその意義			
第14回：特別支援教育コーディネーターの役割			
第15回：まとめ（子どものライフステージをふまえた関係機関・家庭との連携）			
定期試験			
テキスト			
花熊暁，笠井新一郎，荻田知則編『特別支援教育概論』建帛社 2020年			
参考書・参考資料等			
特に指定しない			
学生に対する評価			
定期試験（70％）、課題等（30％）を基準として総合的に評価します。			

授業科目名： 教育課程論（総合的な学習の時間の指導法を含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：藤原一弘 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） ・総合的な探究の時間の指導法		
授業の到達目標及びテーマ 教育課程の意義や役割、編成方法について理解を深めるとともに、カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、学校教育全体の教育課程や指導計画を検討することができる。また、総合的な学習の時間が教育課程上果たす役割や、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導計画の作成及び指導改善に関して理解することができる。			
授業の概要 教育課程の意義とその歴史を理解する。そして、今日的教育課題を踏まえ、今後の日本の教育を見据えた学習指導要領に基づく教育課程の在り方を、現場の具体的実践を参考にしながら考察し、カリキュラム・マネジメントの意義や重要性の理解を深める。さらに、総合的な学習の時間の望ましい指導法について考える。			
授業計画 第1回 オリエンテーション：教育課程とカリキュラム 第2回 学習指導要領の変遷と教育課程 第3回 現学習指導要領における教育課程の役割と位置づけ 第4回 これからの社会で求められる学びと教育課程 第5回 諸外国の教育課程 第6回 教育課程外の学びと教育課程の関連 第7回 カリキュラム・マネジメントと社会に開かれた教育課程 第8回 主体的・対話的で深い学びと資質・能力 第9回 学力と授業デザイン			

第10回 総合的な学習の時間の意義・役割 第11回 総合的な学習の時間の目標と内容 第12回 総合的な学習の時間の指導の在り方(1) (年間指導計画の事例から) 第13回 総合的な学習の時間の指導の在り方(2) (単元計画の事例から) 第14回 総合的な学習の時間の指導の在り方(3) (指導案から) 第15回 総合的な学習の時間の指導改善と評価・まとめ 定期試験
テキスト ・中学校学習指導要領解説―総則編(平成29年7月 文部科学省) ・高等学校学習指導要領解説―総則編(平成30年7月 文部科学省) ・中学校学習指導要領解説―総合的な学習の時間編(平成29年7月 文部科学省) ・高等学校学習指導要領解説―総合的な探究の時間編(平成30年7月 文部科学省)
参考書・参考資料等 ・小学校学習指導要領解説―総則編(平成29年7月 文部科学省) ・小学校学習指導要領解説―総合的な学習の時間編(平成29年7月 文部科学省) その他、授業中に適宜プリントを配布する。
学生に対する評価 授業に対する意欲的な態度(30%)、レポート(40%)、リフレクションシート(30%)とする。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：梅田崇広
特別活動の指導法	必修科目	2単位	担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別活動の指導法		
授業の到達目標及びテーマ			
学校教育課程の一つとして「特別活動」が導入された現代社会の状況と子どもの発達との関連を理解したうえで、特別活動の目標、内容について考察し、学級経営などと特別活動の関連を考えるとともに、特別活動をめぐる集団の理論について考察する。			
授業の概要			
特別活動の概要を講義し、さらに、特別活動を実践するための基盤となる、教師と子どもの関係について考察する。そのうえで、学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事を生かした学級づくりについて明らかにし、地域住民との連携や「チームとしての学校」の視点を含みこんだ特別活動の実践について理解を深める。			
授業計画			
第1回：イントロダクションー特別活動とはなにかー			
第2回：学習指導要領にみる特別活動の変遷			
第3回：特別活動の現代的意義			
第4回：特別活動の目標とその理論的基盤			
第5回：学級づくりの課題（1）ー学級経営の3領域と成長を促す指導ー			
第6回：学級づくりの課題（2）ー生活上の課題解決に向けた合意形成・意思決定ー			
第7回：特別活動の内容と指導法（1）ー学級活動・ホームルーム活動の概要ー			
第8回：特別活動の内容と指導法（2）ー学級活動とキャリア教育ー			
第9回：特別活動の内容と指導法（3）ー生徒会活動ー			
第10回：特別活動の内容と指導法（4）ー学校行事①（儀式的、文化的、健康安全・体育的行事）ー			
第11回：特別活動の内容と指導法（5）ー学校行事②（旅行・宿泊的・勤労生産・奉仕的行事）ー			
第12回：特別活動の実践（1）ー実践プログラムの構想ー			
第13回：特別活動の実践（2）ー実践プログラムの実践ー			
第14回：特別活動の実践（3）ー実践プログラムの振り返り・評価ー			
第15回：特別活動における教師の役割			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
高旗正人・倉田侃司編著『新しい特別活動指導論第2版』（ミネルヴァ書房、平成23年）			

『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（文部科学省 平成29年7月）

『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』（文部科学省 平成29年7月）

参考書・参考資料等

山田浩之編著『教師教育講座第8巻 特別活動論』（協同出版、平成26年）

学生に対する評価

授業への積極的な参加（20％）、毎回の小レポート（20％）、および最終レポート（60％）にもとづき、総合的に評価する。

授業科目名：教育の方法と技術	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：忽那 浩 早川 知宏
			担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
これからの社会を担う生徒に求められる資質・能力を育成するため、教育方法に関する基礎的な理論と実践、具体的には主体的で対話的な深い学びの実現や、授業を構成するための基礎的な要件（生徒・教員・教室・教材など）、学習評価の基礎的な考え方を理解している。加えて、話法や板書、さらには授業の目標・内容・教材・教具・展開・学習形態・評価基準などの視点も意識した指導技術を身に付けることで自らの実践に活用できる。			
授業の概要			
今日の学校教育をめぐる諸問題について理解するとともに、教育改革の方向性について多面的・多角的に考察する。特に時代が求める学力について検討するとともに、授業構成の理論と方法を具体的に考察する。これからの学校教育の役割と課題について理解を深め、魅力ある授業づくりができる資質や能力の修得を目指す。			
授業計画			
第1回目：イントロダクション・今日の学校教育と教育方法の理論背景（担当：忽那 浩）			
第2回目：授業づくりの基礎理論（担当：早川 知宏）			
第3回目：教育目標・教育内容の設定（担当：早川 知宏）			
第4回目：教材開発と授業の構想（担当：早川 知宏）			
第5回目：学習形態・教材教具の工夫（担当：早川 知宏）			
第6回目：授業展開を導く教授行為（担当：忽那 浩）			
第7回目：授業づくりをめぐる現代的課題・まとめ（担当：忽那 浩）			
テキスト			
・よくわかる授業論（田中耕治著、平成19年、ミネルヴァ書房）			
参考書・参考資料等			
・中学校学習指導要領解説—総則編（平成29年 文部科学省）			
・高等学校学習指導要領解説—総則編（平成30年 文部科学省）			
・教育の方法と技術 Ver.2（改訂版）（令和4年、稲垣忠著、北大路書房）			
その他、授業中に適宜プリントを配布する。			
学生に対する評価			
授業に対する意欲的な態度（50%）、課題（レポートや小テストなど）（50%）とする。			

授業科目名：ICT 活用の理論と方法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：忽那 浩 早川 知宏
			担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
学校現場でも広く ICT の活用が求められる社会的背景について踏まえた上で、ICT を効果的に用いる教育実践の意義やその可能性を理解し、授業改善や具体的な学習場面を想定しながら各教科への指導に積極的に活かすことができる。加えて、教育情報セキュリティの重要性やオンライン教育に伴うシステムの使用方法など、情報モラルを含むその活用能力を身に付け、校務の推進に活用できる。			
授業の概要			
ICT の活用が求められる社会的な背景や技術の発展等をおさえながら、教育現場で ICT を活用するための理論、ICT を用いた学習指導の実践、さらには生徒に情報活用能力を育成するための指導について概説をする。またこれに加えて、外部機関との連携や情報教育セキュリティの意義、ICT 環境における整備の重要性についても理解を深める機会を提供する。その上で、ICT を効果的に活用した学習指導や生徒の情報活用能力を育てる実践を構成・考察するために必要な知識・技術の習得を目指す。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション、ICT が求められる社会背景（担当：忽那 浩）			
第 2 回：教育における ICT 活用とその意義（担当：忽那 浩）			
第 3 回：教育における ICT 活用の方法（担当：早川 知宏）			
第 4 回：教育場面での ICT 活用実践（担当：早川 知宏）			
第 5 回：校務で拡大する ICT 利用の可能性-ICT の環境整備（担当：早川 知宏）			
第 6 回：各教科における ICT 活用の指導及び評価（担当：忽那 浩）			
第 7 回：生徒の学習を促す ICT 活用-外部機関等との連携の在り方（担当：忽那 浩）			
第 8 回：まとめ（担当：忽那 浩）			
テキスト			
・よくわかる授業論（田中耕治著、平成 19 年、ミネルヴァ書房）			
参考書・参考資料等			
・中学校学習指導要領解説―総則編（平成 29 年 文部科学省）			
・高等学校学習指導要領解説―総則編（平成 30 年 文部科学省）			
その他、授業中に適宜プリントを配布する。			
学生に対する評価			
授業に対する意欲的な態度（50％）、課題（レポートや小テストなど）（50％）とする。			

授業科目名：	教員の免許状取得のため	単位数：	担当教員名：日原尚吾
生徒・進路指導の理論と方法	の必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める	・ 生徒指導の理論及び方法		
科目区分又は事項等	・ 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
生徒指導の意義や原理、方法等の基礎を学び、事例検討を通して生徒指導の機能を発揮させる方法を考えるとともに、進路指導について、キャリア教育の観点から理論的・実践的な検討を行う。そうすることで、生徒指導及び進路指導に関して、生徒への対応の基礎となる知識と態度を身につける。			
授業の概要			
生徒指導の現場において、児童・生徒への対応の基礎となる知識と態度を身につける。授業の前半では生徒指導の意義や原理、方法等の基礎を学ぶとともに、事例検討を通して生徒指導の機能を発揮させる方法を考える。後半では、生徒指導と密接に関連している進路指導について、キャリア教育の観点から理論的・実践的な検討を行う。			
授業計画			
第1回　オリエンテーション			
授業計画と評価方法を説明するとともに、生徒指導の目的を概説することで生徒から教師へ視点を転換する。			
第2回　生徒指導の意義・原理・位置づけ			
『学習指導要領』『生徒指導提要』をもとに、生徒指導の意義と、その機能を発揮させる枠組み（方法原理と位置づけ）を考える。			
第3回　さまざまな教育活動のなかの生徒指導			
各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等との関連から生徒指導の機能を発揮させる要点を考える。			
第4回　児童生徒理解と日常的な生徒指導			
児童生徒理解をうながす教師－生徒のコミュニケーションのあり方や、集団全体を対象とする日常的な生徒指導を検討する。			

第5回 教育相談

教育相談の考え方と進め方について、教育相談体制とカウンセリング・マインドの視点から考える。

第6回 生徒指導体制の構築と専門機関等との連携

学校内の組織体制や指導計画に加え、家庭・地域や専門機関とともに生徒指導をすすめる視点と方法を検討する。

第7回 生徒指導と懲戒

部活動指導における「体罰」問題などを事例に、生徒指導の目標をふまえた懲戒のあり方について検討する。

第8回 暴力・非行をめぐる生徒指導

校内暴力や少年非行の現状を把握し、事例検討から具体的な指導を考える。

第9回 いじめ・不登校をめぐる生徒指導

いじめ・不登校の現状を把握し、資料や事例の検討を通じて具体的な指導を考える。

第10回 インターネット利用をめぐる生徒指導

児童生徒を取りまく現代のインターネット環境を把握し、事例検討から具体的な指導を考える。

第11回 進路指導・キャリア教育の意義・原理・位置づけ

『学習指導要領』『キャリア教育の手引き』をもとに、進路指導・キャリア教育の意義と、その機能を発揮させる枠組み（方法原理と位置づけ）を考える。

第12回 計画的・組織的にすすめる進路指導・キャリア教育

進路指導・キャリア教育をどのようにすすめる必要があるか、体験活動や集団指導を中心に、計画と組織の観点から検討する。

第13回 個別の課題によりそう進路指導・キャリア教育

児童生徒の個々のキャリア発達をうながす指導について、教材の活用や評価の方法、カウンセリングを中心に検討する。

第14回 学校段階間の接続をふまえたキャリア教育

学校段階間の接続をふまえたキャリア教育の重要性をふまえ、実践事例等を用いて具体的な指導を考える。

第15回 まとめ

以上の内容を総括し、生徒指導・進路指導の要点を俯瞰的に再整理するとともに、期末課題に

について説明する。
テキスト ・生徒指導提要（改訂版）（令和4年 文部科学省）
参考書・参考資料等 ・中学校・高等学校キャリア教育の手引き（令和5年 文部科学省） その他、授業中に適宜プリントを配布する。
学生に対する評価 1)授業毎の小レポート（30％）：授業内容に関連する論述を評価する。授業内容に関連しない記述は評価の対象としない。 2)最終レポート（70％）：授業の到達目標にかかわる問題を出題する。生徒指導・進路指導に関する知識の定着に加え、記述の論拠、論理性や実践上の課題への配慮等を評価する。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：日原尚吾
教育相談	必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。） の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
教育相談は、児童生徒の教育上の問題について、本人や保護者に対して望ましいあり方を助言することである。本授業では、教育相談の概要を理解し、生徒の教育上の諸問題に対する理解を深めること、また理解するための視点を養うこと、実際の関わりにおける基本的な態度や姿勢・技法を知ること、を目標とする。			
授業の概要			
教育相談には、児童生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育てること、生活への適応をサポートすること、自己理解の深化を促すこと、人格の成長への援助を図ることなどが含まれる。現代の学校では、いじめや不登校をはじめとする“問題”や、障害や被虐待経験などによる個々が抱える“困難”などへの対応・援助のみならず、生徒の発達や自己実現、キャリア発達などへの援助においても、教育相談は重要な活動となっている。			
本授業では、教育相談に携わる際に必要となる知識やスキルを身につけることを目的とする。グループワークやエクササイズ、また具体例に触れることにより、実践的な学びになるよう授業を構成する。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：教育相談とは（意義、役割、歴史、基本的な考え方など）			
第3回：カウンセリング・マインドと自己・他者理解			
第4回：パーソナリティの理解と心理テスト			
第5回：カウンセリングの技法			
第6回：教育相談の考えを活かした指導			
第7回：思春期・青年期という時期			
第8回：思春期・青年期の理解			

第 9 回：不登校の理解と対応

第 10 回：いじめの理解と対応

第 11 回：非行の理解と対応

第 12 回：発達上の困難を抱える児童生徒の理解と対応

第 13 回：保護者の理解と対応

第 14 回：養護教諭・スクールカウンセラーの役割、関係機関との連携、教師のメンタルヘルス

第 15 回：まとめ

定期試験

テキスト

『エッセンス 学校教育相談心理学』（石川正一郎・藤井泰 著、2010 年、北大路書房）

『教師のための教育相談の基礎』（久芳美恵子 著、2003 年、三省堂）

参考書・参考資料等

『教師のための教育相談の技術』（吉田圭吾 著、2007 年、金子書房）

『生徒指導提要（改訂版）』（文部科学省、2022 年）

学生に対する評価

リアクションペーパーや授業中の課題、授業への積極的姿勢（30%）、定期試験（70%）

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (中・高)		単位数：2単位		担当教員名：忽那浩、作田良三、伊勢本大、日原尚吾	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 35 人(3クラスで実施)					
本学の教職実践演習では、複数の教員が担当をするため、基本的に免許科目ごとに受講者のグループ分けを行い、授業を展開する。なお、1グループあたりの学生数は10名程度である。ただし、ゲスト・スピーカーを招聘する第7回、および模擬授業を行う回(9～13回)は集合授業となる。					
教員の連携・協力体制					
本授業はグループに分かれての授業・活動が中心となる。ただし、各グループでの進捗や内容、模擬授業で扱うテーマに関する情報共有は教員間で常に行われている。そうした連携体制が構築されているため、グループによって授業内容が異なるということはない。なお、模擬授業の検討・実施を授業内で行う際には、教科専門担当となる教員が中心となって学生に助言を行う。					
大学から徒歩圏内にある複数の学校とも協力し、学校現場への見学も行っている。					
授業のテーマ及び到達目標					
教職課程の総まとめ的な授業として、教員として必要とされる①使命感・責任感・教育的愛情、②社会性・対人関係能力、③生徒理解や学級経営、④教科指導力のそれぞれについて理解を深め、「養成段階で修得すべき最小限必要な資質能力」(採用当初から学級等を担任しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を、指導・助言を受けながら実践できる資質能力)の完成を図る。					
授業の概要					
教職課程の総まとめ的な授業として、これまでの学修をふり振り返り、教育実習等をとおして明らかになった課題を履修カルテや『実習録』を使用しながら確認したうえで、その課題を考察し、教師の資質能力の向上を図る。					
そのために、まず、教職の意義について理解を深め、教員の職務内容や生徒指導等について実際の場面を想定して具体的に考察・理解を深める。それらの理解・考察ののち、特に教科の指導力に重点をおき、教育実習で明らかになった課題をふまえ、模擬授業を実施することで、各学校段階に即した教科指導についてより考察を深める。					
授業計画					
第1回：ガイダンス					
第2回：教職の意義や教師の使命・責任感に関するグループ討論					
第3回：職務内容や教員の役割、及び教職員の協力・連携に関するグループ討論					
第4回：保護者・地域との協力・連携に関するグループ討論、ロールプレイング					
第5回：生徒理解や生徒指導に関するグループ討論					
第6回：学級経営に関するグループ討論					
第7回：ICT活用指導力に関する知識・技能の習得					
第8回：教科の指導力に関するグループ討論					
第9回：模擬授業と授業改善①(地理歴史科について)					
第10回：模擬授業と授業改善②(社会科について)					
第11回：模擬授業と授業改善③(英語科について)					
第12回：模擬授業と授業改善④(商業科について)					
第13回：模擬授業と授業改善⑤(情報科について)					
第14回：教科指導や教師の資質能力に関するグループ討論					
第15回：まとめ					
定期試験は実施しない。					
テキスト					
なし					

参考書・参考資料等

赤井悟ほか、2014、『教師力を鍛えるケースメソッド 123』ミネルヴァ書房

林尚示ほか、2018、『生徒指導・進路指導 第2版：理論と方法』学文社

渡辺光輝ほか、2022、『逆引き版 ICT 活用授業ハンドブック』東洋館出版社

奈須 正裕ほか、2023、『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して』北大路書房

学生に対する評価

①授業での取り組みに対する積極性、およびグループ討論における貢献度、②課題・レポート、③模擬授業、の3点から、総合的に評価します。

なお、正当な事由のない欠席や遅刻があったり、正当な事由があっても事前連絡のない欠席や遅刻があったりした場合には、それだけで単位を認めないことがあります。また、教員としての資質を著しく欠くと判断した場合には、単位を認めません。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。